

全国学力・学習状況調査の結果

調査概要

- ◆調査日時：令和3年5月27日（木）
- ◆調査事項：①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学〕、質問紙調査
②学校：質問紙調査
- ◆調査対象及び集計対象 児童生徒数・学校数：

	小学校				中学校			
	調査対象児童数※1	集計対象児童数※2	調査対象学校数	集計対象学校数	調査対象生徒数※1	集計対象生徒数※2	調査対象学校数	集計対象学校数
公立	1,040,907人	994,101人	18,965校	18,857校 (99.4%)	989,824人	903,253人	9,475校	9,320校 (98.4%)
国立	6,393人	4,932人	75校	61校 (81.3%)	10,146人	7,616人	80校	63校 (78.8%)
私立	13,071人	6,567人	240校	120校 (50.0%)	81,250人	22,126人	761校	297校 (39.0%)
合計	1,060,371人	1,005,600人	19,280校	19,038校 (98.7%)	1,092,580人	932,995人	10,316校	9,680校 (93.8%)

※1 調査対象児童生徒数について、公立及び国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、令和2年度学校基本調査による。調査当日までに増減した可能性がある。

※2 集計対象児童生徒数・学校数は、5月27日に調査を実施した数。集計対象児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

◆新型コロナウイルス感染症による影響について

調査日を例年より約1か月後ろ倒しするとともに、後日実施の期間を約1か月間に延長。

（5月28日～6月30日） ※後日実施の場合、採点及び調査結果の提供は行わが、全体集計からは除外。

・後日実施校数：小学校103校、中学校184校

うち新型コロナウイルス感染症による影響（休校や学級閉鎖等）：小学校42校、中学校41校

◆児童生徒質問紙調査の端末を活用したオンラインによる実施について

児童生徒質問紙調査を、一部の国立大学附属学校(小学校：51校4314人、中学校：57校7035人)において、PC・タブレット等の端末を活用したオンラインによる回答方式で試行的に実施。

教科に関する調査結果概要

◆全国（国公私）の平均正答数・平均正答率

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
令和3年度	9.1/14問 64.9%	11.3/16問 70.3%	9.1/14問 64.9%	9.2/16問 57.5%
(参考) 令和元年度	9.0/14問 64.0%	9.3/14問 66.7%	7.3/10問 73.2%	9.7/16問 60.3%

1. 教科に関する調査結果

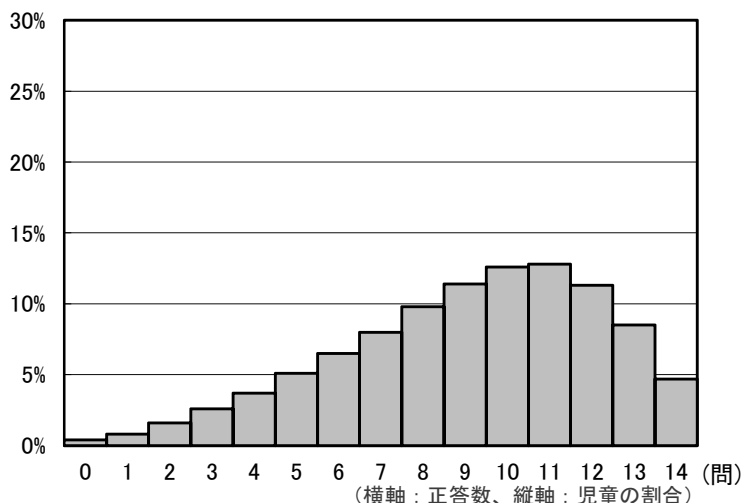
小学校国語

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	6 68.5
		情報の扱い方に関する事項	0 -
		我が国の言語文化に関する事項	0 -
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	3 77.9
		書くこと	2 60.8
		読むこと	3 47.4
評価の観点	知識・技能	6 68.5	
	思考・判断・表現	8 62.2	
問題形式	選択式	8 71.9	
	短答式	3 70.7	
	記述式	3 40.4	

〈小学校国語の児童の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
9.1/14問	64.9%	10.0問	3.1問	11問



〈調査結果のポイント〉

- 新学習指導要領で示された「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」を踏まえた「話すこと・聞くこと」に係る出題について、**資料を用いる目的を理解したり、目的や意図に応じて、資料を使って話したりすることはできている。**
- **目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけて読むことについて、引き続き課題がある。**

● 学習指導要領の内容別の主な特徴と指導改善のポイント

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

- 思考に関わる語句（例えば、「～は～より…」といった複数の情報を比べる語句）の使い方を理解し、話や文章の中で使うことはできているが、文の中における主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係を捉えることに課題がある。



主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係に気を付けて文を整えることが、自分の思いや考えを正確に伝える上で重要であると気付くことができるように指導することが大切である。

【話すこと・聞くこと】

※具体的な設問例①参照

- 目的に応じて、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることはできている。
- 資料を用いる目的を理解したり、目的や意図に応じて、資料を使って話したりすることはできている。



目的や意図に応じて、資料を選択し、**聞き手に提示する資料のどの部分に着目してほしいのか、どのような説明を加えると話の内容を分かりやすく伝えられるのか**について検討し、**自分の表現に生かすことができるように指導することが引き続き大切である。**

【書くこと】

- 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。



自分の考えが伝わるように書くためには、**目的や意図に応じて、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合を、自ら判断して書くことができるように指導することが大切である。**

※具体的な設問例②参照

【読むこと】

- 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することはできている。
- 目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに引き続き課題がある。また、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。



図表やグラフなどを含む文章を読む際に、文章中に用いられている**図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにし、文章と図表との関係を捉えて読むことができるように指導することが大切である。**

●具体的な設問例

①【話すこと・聞くこと】調べたことについて、資料を使ってスピーチをする

(大問1 津田梅子の紹介)

三 目的や意図に応じ、資料を使って話す問題

- ・【スピーチ】の練習で、資料を使って話す内容として適切なものを選択する問題

- 1 黒丸の印（・）の分布が示すように、教師になった卒業生は、一生懸命に学びました。
- 2 黒丸の印（・）の分布が示すように、教師になった卒業生は、日本のさまざまな地域で働きました。
- 3 黒丸の印（・）の分布が示すように、教師になった卒業生の数は、年ごとに増えていきました。
- 4 黒丸の印（・）の分布が示すように、教師になった卒業生の勤務校は、一部の地域にかたよっていました。

正答率：81.1%



②【読むこと】説明的な文章を読み、分かったことをまとめる (大問2「面ファスナー」)

三 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題

正答率：34.6%

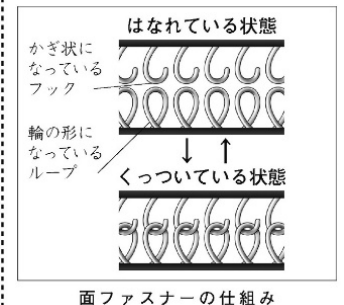
- ・資料の文章と図表をもとに、面ファスナーの開発のヒントとなったこととその仕組みについて、50字以上80字以内でまとめて記述する問題

【資料】狩猟のため、愛犬をつれて山に登ったジョルジュ・デ・メストラは、犬の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていることに気がつきました。不思議に思い、その実を持ち帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実は先の曲がったかぎ状のトゲでおおわれていることがわかりました。そのトゲが犬の毛にからみついていたのです。このことをヒントにメストラは研究を重ね、数年後、特殊な素材を使い、面ファスナーを作り出しました。

(正答例)

メストラは、ゴボウの実が犬の毛にからみついていたことをヒントに、かぎ状のフックが輪の形をしたループに引っかかることでくっつく仕組みの面ファスナーを作り出した。(80字)

- ・ ヒントになったことは書いているが、仕組みは書いていない…39.0%
- ・ ヒントになったことは書いていないが、仕組みは書いている…11.8%
- ・ どちらも書いていない…8.8%



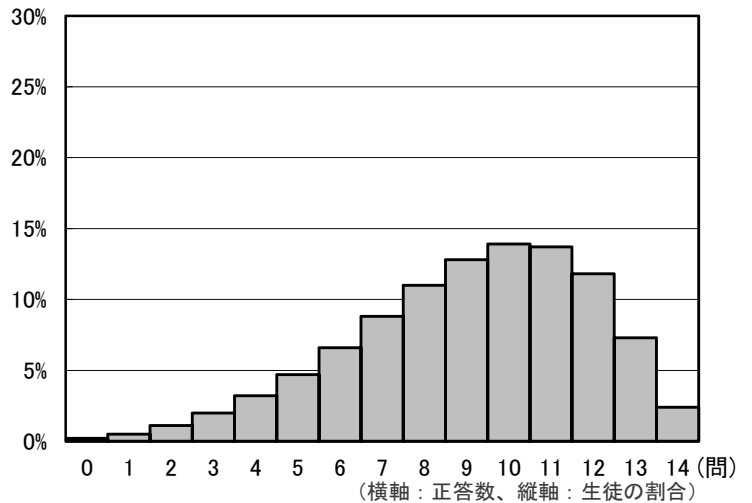
中学校国語

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	80.0
	書くこと	3	57.3
	読むこと	4	48.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に 関する事項	4	75.4
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	56.3
	話す・聞く能力	3	80.0
	書く能力	3	57.3
	読む能力	4	48.9
	言語についての知識・理解・技能	4	75.4
問題形式	選択式	6	64.2
	短答式	4	74.7
	記述式	4	56.3

〈中学校国語の生徒の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
9.1/14問	64.9%	9.0問	2.8問	10問



〈調査結果のポイント〉

- 文章を読み、**登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することはできているが、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題**がある。
- 過年度の小学校調査において見られた課題に関連した出題において、**相手や場に応じて敬語を適切に使うことに課題**がある。

● 学習指導要領の内容別の主な特徴と指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

- 話合いの話題や方向を捉えることはできているが、適切な発言について考えることに課題がある。



話合いを効果的に進め、互いの発言を踏まえて、考えをまとめたり広げたり深めたりする力を身に付けるために、第1学年では、**話題や展開を捉え**ながら、第2学年では、**互いの立場や考えを尊重し**ながら、第3学年では、**進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合う**ことなどについて、**意図的・計画的に指導を重ねることが大切**である。

【書くこと】

- 書いた文章を互いに読み合う場面において、文章の構成にどのような工夫があるかを捉えることはできているが、推敲する場面において、語句や文の使い方、段落相互の関係について考えることに課題がある。



読み手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直し、分かりやすい文章に整える力を身に付けるために、第1学年では、**表記や語句の用法、叙述の仕方**などを、第2学年では、**表現の効果**などを、第3学年では、**目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめること**について指導する必要がある。

【読むこと】

※具体的な設問例①参照

- 文章を読み、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することはできている。
- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題がある。



文章の内容を理解したり自分の考えを形成したりする力を身に付けるために、「読むこと」の学習過程を意識しながら、例えば、**文学的な文章を読んで考えたことなどを記録したり伝え合ったりする言語活動を通して指導することが効果的である。**

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

※具体的な設問例②参照

- 文脈に即して漢字を正しく読むことはできている。
- 相手や場に応じて敬語を適切に使うことに課題がある。



敬語などの相手や場に応じた言葉遣いについて理解し、適切に使う力を身に付けるために、小学校での学習を踏まえ、**敬語に関する個々の体験的な知識を整理して体系付けるとともに、人間関係の形成や維持における敬語のもつ働きを理解するように指導することが大切である。**

● 具体的な設問例

① 【読むこと】 文学的な文章を読む（大問3「吾輩は猫である」）

三 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する問題

正答率:71.5%

- ・ 「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す。

（正答例）

- ・ 彼は喟然として大息している
- ・ すこぶるおこったようすで背中 of 毛を逆立てている

② 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 電子メールを書く（大問4 焼き物作りの体験）

三 相手や場に応じて敬語を適切に使う問題

正答率:40.9%

- ・ メールの下書きの「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類を次の1から3までの中から一つ選ぶ。

1 尊敬語 **2 謙譲語** 3 丁寧語

（正答の条件）

「伺う」「参る」「ご訪問する」「お訪ねする」など、状況に合う敬語に直し、「2 謙譲語」を選択しているもの

- ・ 状況に合う敬語に直しているが、「2 謙譲語」を選んでいない…16.6%
- ・ 「2 謙譲語」を選んでいないが、状況に合う敬語を書けていない…16.3%
- ・ 上記以外の解答…24.4%
（例：「いらっしゃる」、「1 尊敬語」）

青木さんが送信する【二回目のメールの下書き】

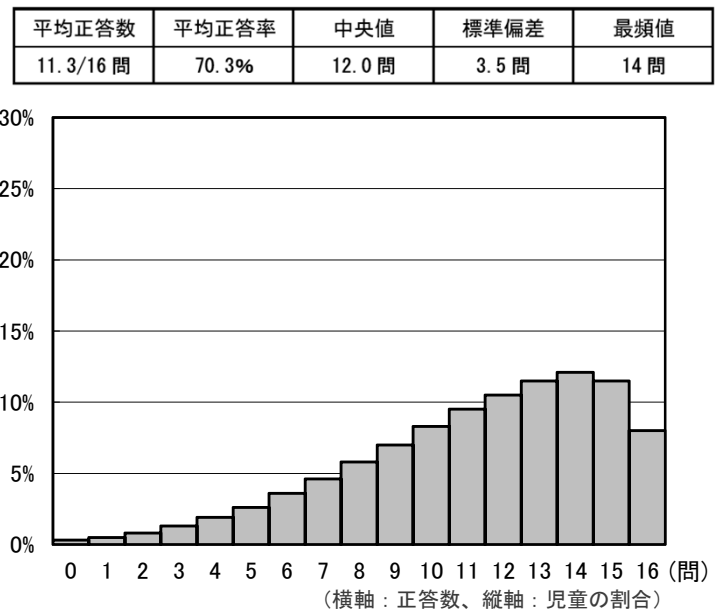
宛先: △△△△@△△△.△△.jp
件名: Re: Re: 焼き物作りの体験について
2021/05/14
ふるさと焼き物館 前田 花子 様
第一中学校の青木です。ご返信くださりありがとうございます。
希望のコースと人数ですが、Aコース2名、Bコース2名でお願いいたします。当日は開始時刻の10分前に行く予定です。
④
なお、
第一中学校 青木 太郎

小学校算数

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の 領域	数と計算	4	63.3
	図形	3	58.1
	測定	3	74.9
	変化と関係	3	76.0
	データの活用	5	76.1
評価の観点	知識・技能	9	74.3
	思考・判断・表現	7	65.2
問題形式	選択式	6	76.2
	短答式	6	75.9
	記述式	4	53.2

〈小学校算数の児童の正答数分布グラフ〉



〈調査結果のポイント〉

- 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことはできているが、速さを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がある。
- 「データの活用」の領域について、帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することに課題がある。

● 学習指導要領の領域・内容別の主な特徴と指導改善のポイント

【数と計算】

- 示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することはできている。
- 商が1より小さくなる等分除（整数） \div （整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることに課題がある。



除法の場面では、数量の関係に着目して被除数と除数を捉えて立式をしたり、計算結果について、日常生活の場面に即して判断したりできるように指導することが大切である。

【図形】

- 三角形の面積の求め方について理解することに課題がある。
- 二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方を記述することに課題がある。



図形の面積を求める際、図形を構成する要素などに着目して必要な情報を選び出し、面積の求め方について筋道を立てて説明できるように指導することが大切である。

【変化と関係】

- 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことはできている。
- 速さを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がある。



速さを比べる場合には、**伴って変わる二つの数量の関係に着目し、それらの関係を用いたり、単位量当たりの大きさの意味及び表し方を理解し、単位量当たりの大きさをういて比べたりできるように指導することが大切である。**

【データの活用】

- 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることはできている。
- 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することに課題がある。



身の回りの事象について、**データに基づいて判断する統計的な問題解決の方法を知り、その方法で考察できるようにすることが重要である。**

●具体的な設問例

①【変化と関係】 日常の事象を数理的に捉え数学的に表現・処理すること (大問1 地域めぐり)

(3) 速さを求める除法の式から、商の意味として適切なものを選ぶ問題

正答率:56.0%

	道のり (m)	時間 (分)
㊦ インターネット	1600	20
㊧ たけるさんたち	500	7

どちらのほうが速いかを調べるために、下の計算をしました。

㊦ インターネット $1600 \div 20 = 80$
 ㊧ たけるさんたち $500 \div 7 = 71.4\dots$

上の計算からどのようなことがわかりますか。

- 1 1分間あたりに進む道のりは80mと約71mなので、㊦のほうが速い。
- 2 1分間あたりに進む道のりは80mと約71mなので、㊧のほうが速い。
...22.8%
- 3 1mあたりにかかる時間は80分と約71分なので、㊦のほうが速い。
...6.8%
- 4 1mあたりにかかる時間は80分と約71分なので、㊧のほうが速い。
...9.4%

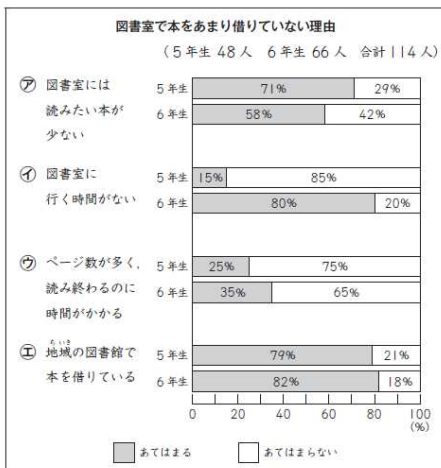
(5) 速さと道のりを基に、時間を求める式に表す問題

(正答) <式> $2700 \div 540$

正答率:85.2%

②【データの活用】 統計的な問題解決の方法を用いた考察 (大問3 図書アンケート)

(4) 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて記述する問題



左のグラフについて、5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目はどれですか。また、その項目について、「あてはまる」と答えた5年生と6年生の割合はそれぞれ何%ですか。

項目とそれぞれの割合を、言葉と数を使って書きましょう。

正答率:52.2%

(正答例)
 5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目は、
 ㊧図書室に行く時間がないです。
 5年生が15%で、6年生が80%です。

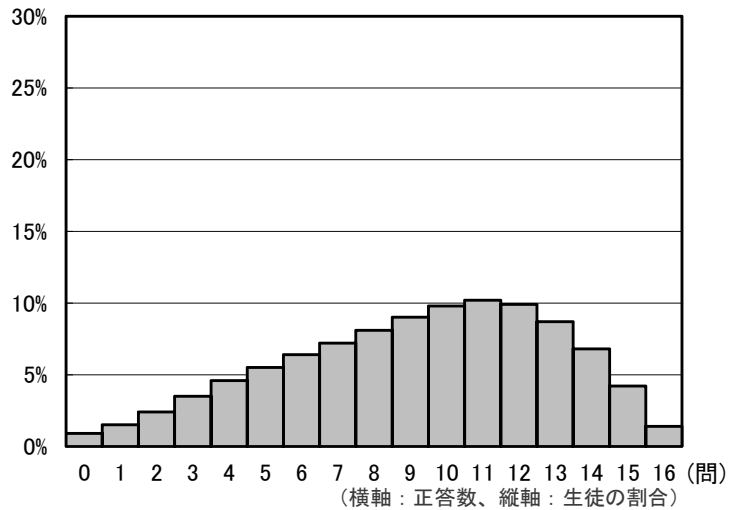
中学校数学

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の 領域等	数と式	5	65.3
	図形	4	51.8
	関数	3	56.8
	資料の活用	4	54.0
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	-
	数学的な見方や考え方	7	41.5
	数学的な技能	3	77.9
	数量や図形などについての 知識・理解	6	65.9
問題形式	選択式	2	52.8
	短答式	9	70.8
	記述式	5	35.5

〈中学校数学の生徒の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
9.2/16問	57.5%	10.0問	3.7問	11問



〈調査結果のポイント〉

- 「関数」の領域について、**日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題**がある。
- データに基づいて事象を考察する場面において、データから**中央値を求めることに改善の傾向**がみられる。一方、2つの分布の傾向を比べる際の**相対度数の必要性と意味の理解に課題**がある。

● 学習指導要領の領域・内容別の主な特徴と指導改善のポイント

【数と式】

- 整式の加法と減法の計算をすることはできている。
- 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することに課題がある。



数の性質について成り立つ事柄の特徴を数学的に説明することができるようにするために、**文字を用いて表した計算結果を事象と関連付けて読み取る活動を充実**することが大切である。

【図形】

- ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することに課題がある。



ある条件の下で図形を動かしたとき、**辺や角などについていつでも成り立つ性質を見だし、それを数学的に表現する活動を充実**することが大切である。

【関数】

※具体的な設問例①参照

- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に取り出すことはできている。
- 日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題がある。



日常生活における問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、**表、式、グラフの中から用いるものを明確にするとともに、その使い方を適切に表して問題解決の方法を説明する活動を充実することが大切である。**

【資料の活用】

※具体的な設問例②参照

- 与えられたデータから中央値を求めることはできている、改善の傾向がみられる。
- 2つの分布の傾向を比べる際の相対度数の必要性と意味の理解に課題がある。

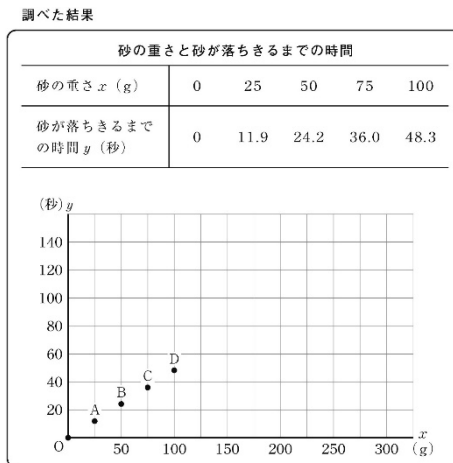


相対度数の必要性や意味を理解するために、**大きさの異なる2つ以上の集団のデータについて、その傾向を比較する活動を充実することが大切である。**

● 具体的な設問例

① 【関数】 日常的な事象の数学化と問題解決の方法 (大問7 砂時計)

(2) 与えられた表やグラフを用いて、2分間をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する問題



正答率: 28.2%

(正答例)

- ・ 原点 O を通る直線のグラフをかき、 $y = 120$ のときの x 座標を読む。
- ・ y を x の比例の式で表し、その式に $y = 120$ を代入し、 x の値を求める。

- ・ グラフを用いることは記述しているが、 $y = 120$ のときの x 座標を読むことについて記述していない...14.6%
- ・ 式を用いることは記述しているが、 $y = 120$ を代入して x の値を求めることについて記述していない...6.1%

② 【資料の活用】 資料の散らばりと代表値 (大問5)

(2) 与えられたデータから中央値を求める問題

下の記録は、ある中学校の男子生徒10人が反復横とびを20秒間行ったときの結果を、回数の少ない方から順に並べたものです。

正答率: 84.4%

(正答) 54 (回)

記録

43	46	46	52	53	55	56	56	56	57
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

(単位: 回)

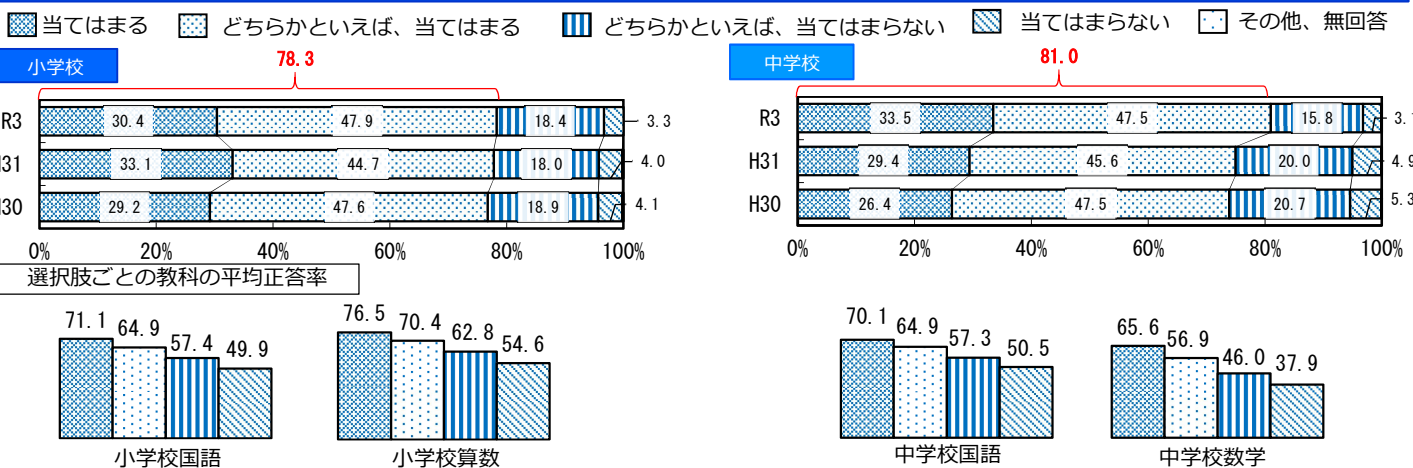
反復横とびの記録の中央値を求めなさい。

2. 質問紙調査結果（児童生徒、学校）

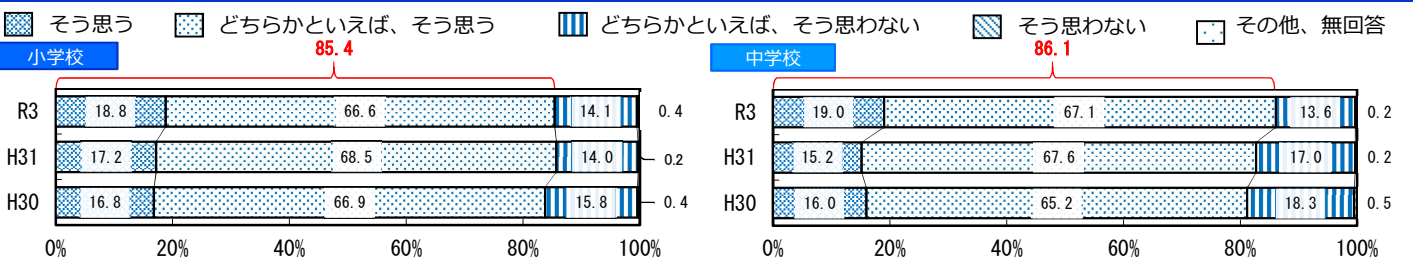
2(1). 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況①

- ◆「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に肯定的に回答した割合は特に生徒で増加しており（児童生徒ともに約80%）、この質問に肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い傾向が見られた。
- ◆また、学校質問紙における同様の質問に肯定的に回答した小中学校の割合も85%を超えており、学校の就学援助を受けている児童生徒の割合に関わらず、この質問に肯定的に回答した学校ほど、全ての教科において平均正答率が高い傾向が見られた。
- ◆「本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか」との質問に「週に1回程度、または、それ以上行った」「月に数回程度行った」と回答した割合は、平成29年度の回答から小中学校ともに25ポイント以上増加している。

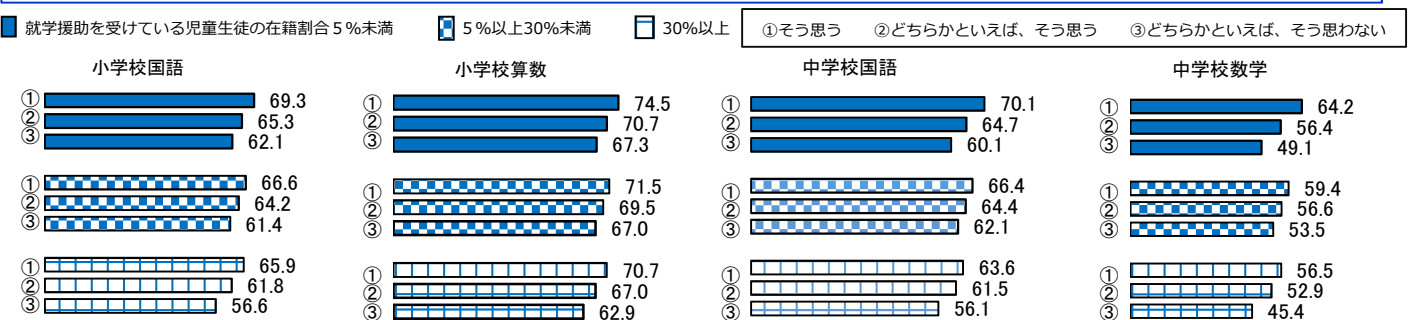
【児童生徒質問紙】授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



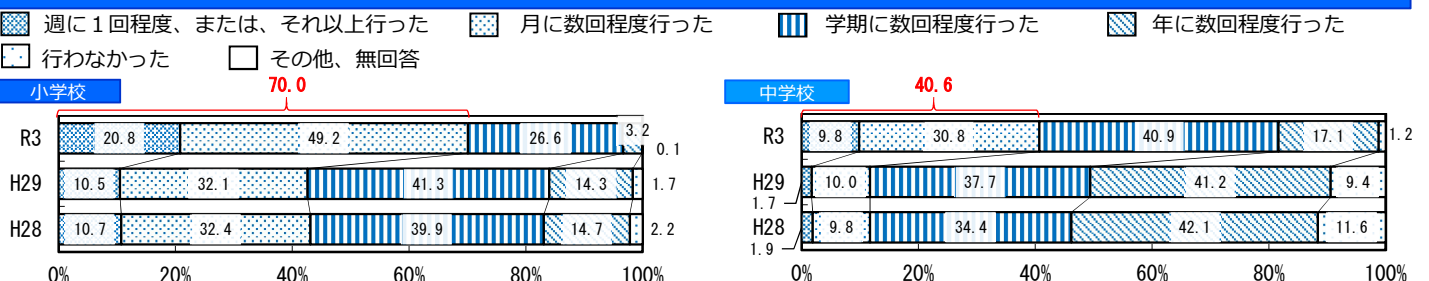
【学校質問紙】授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。



三重クロス分析（就学援助率×「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うか」×各教科の平均正答率）



【学校質問紙】調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか。

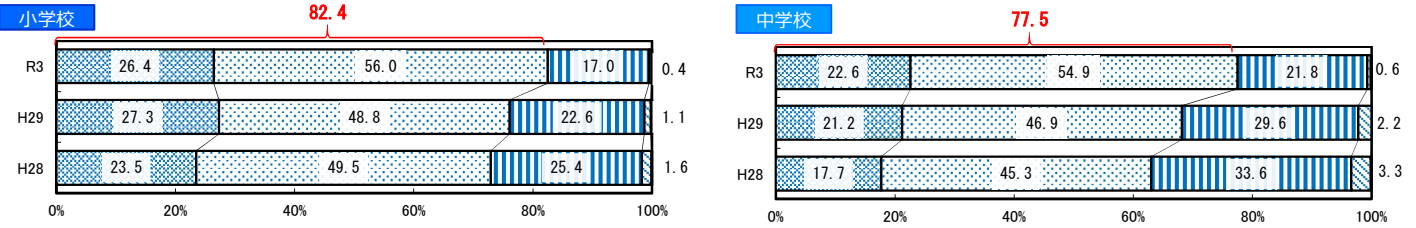


2(1). 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況②

- ◆「児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動」についての学校の取組はいずれも増加しており、小中学校ともに約80%の学校で校内研修が行われ、授業においても80%以上の学校がそのような学習活動を取り入れていると回答している。
- ◆「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」との質問に肯定的に回答した小中学校及び児童生徒の割合は増加しており、いずれも約80%となっている。

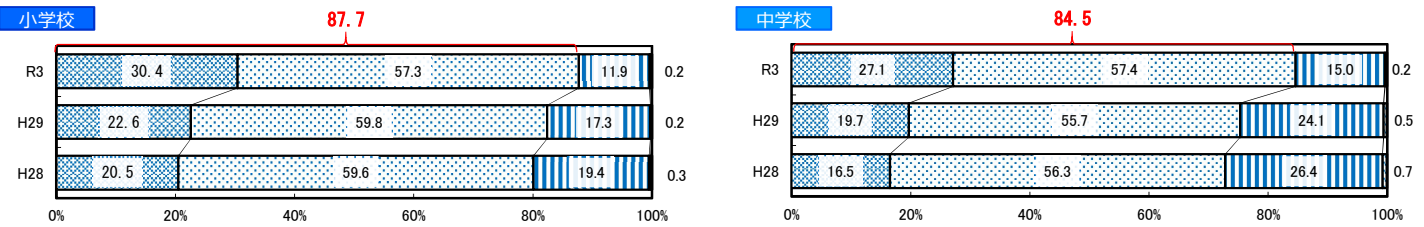
【学校質問紙】児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている。

よくしている どちらかといえば、している あまりしていない 全くしていない その他、無回答



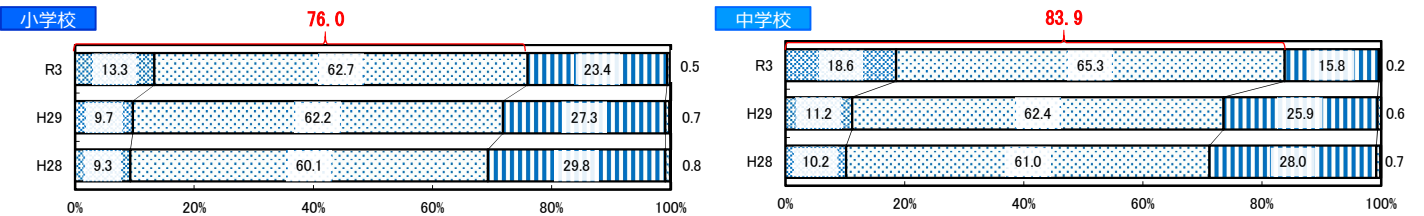
【学校質問紙】授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた。

よく行った どちらかといえば、行った あまり行わなかった 全く行わなかった その他、無回答



【学校質問紙】児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思いますか。

そう思う どちらかといえば、そう思う どちらかといえば、そう思わない そう思わない その他、無回答



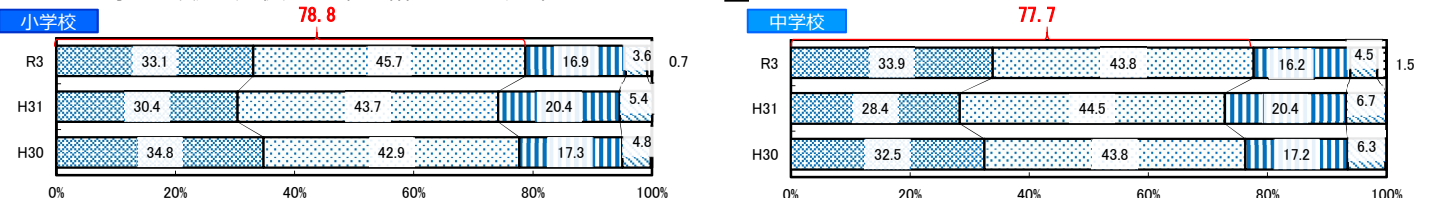
選択肢ごとの教科の平均正答率

- ◆「児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」との質問に肯定的に回答した学校ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られた。



【児童生徒質問紙】学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていますか。

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない
学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を行っていない その他、無回答

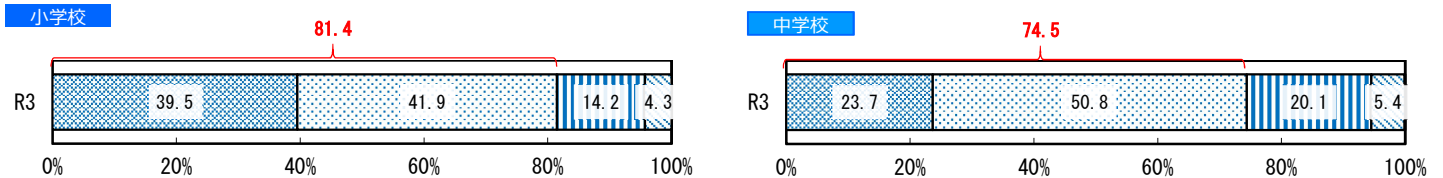


2(1). 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況③

- ◆ **個に応じた指導（個別最適な学び）の状況**について、「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか」との質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は**児童で80%以上、生徒で70%以上**であった。
- ◆ 「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した割合が高い傾向が見られた。
- ◆ 「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、「国語、算数・数学の勉強が好きだ」と回答した割合が高い傾向が見られた。

【児童生徒質問紙】授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。（新規）

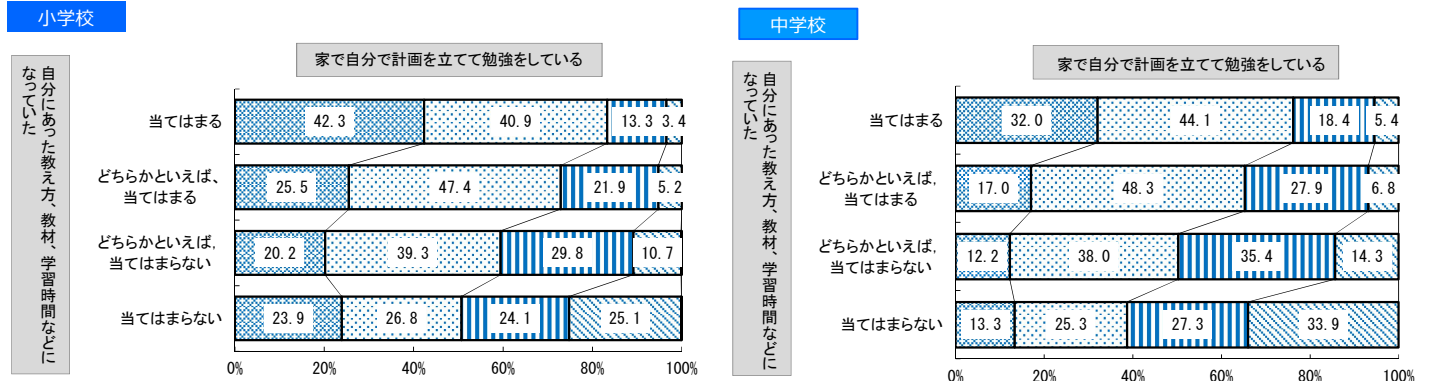
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない ■ その他、無回答



（児・生）授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。

✕ （児・生）家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

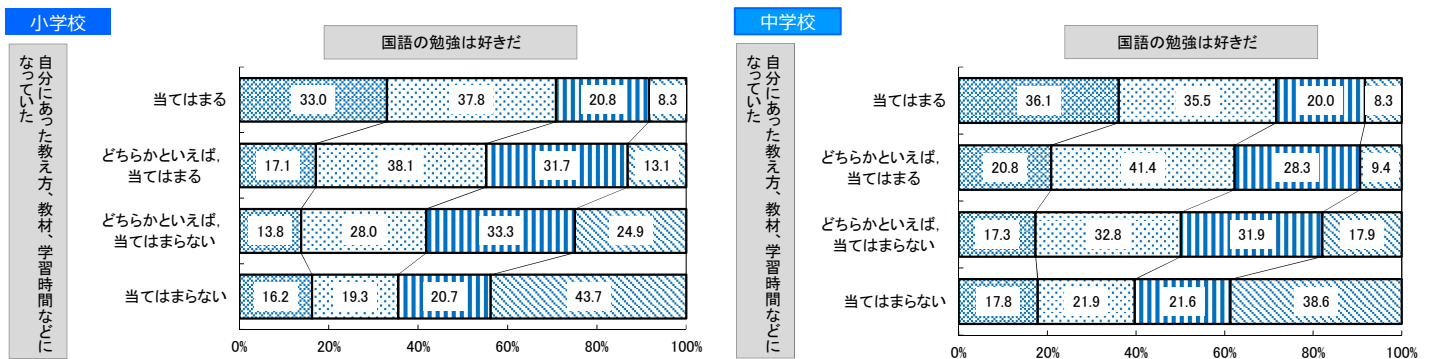
■ よくしている ■ ときどきしている ■ あまりしていない ■ 全くしていない ■ その他、無回答



（児・生）授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。

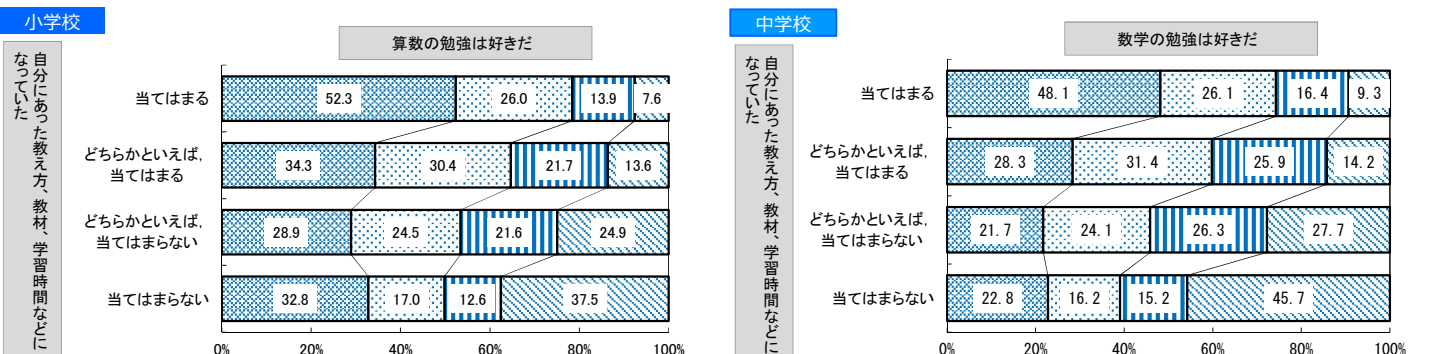
✕ （児・生）国語の勉強は好きだ。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない ■ その他、無回答



（児・生）授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。

✕ （児・生）算数[数学]の勉強は好きだ。

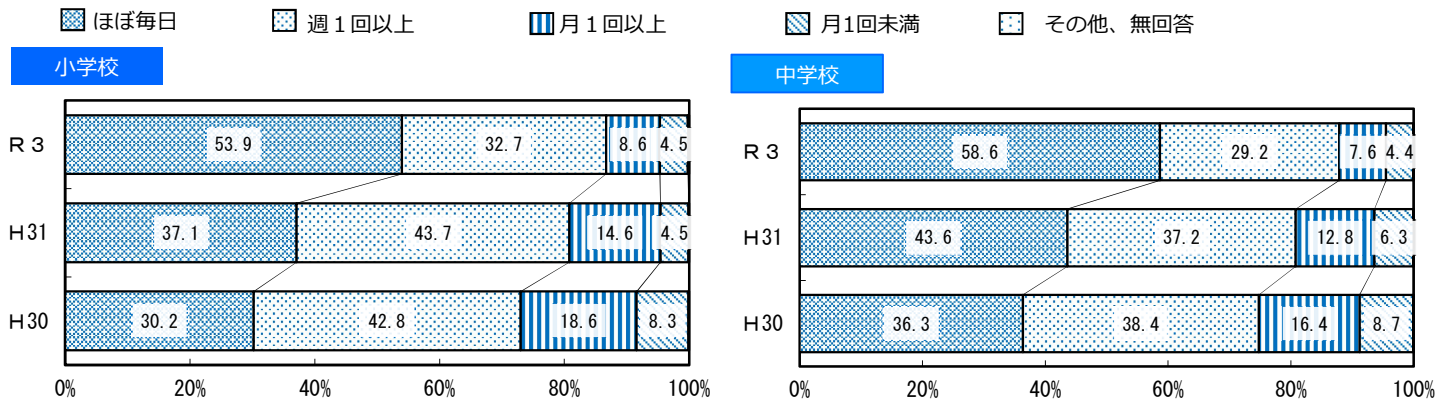


2(2). ICTを活用した学習状況（ICTの活用頻度①）

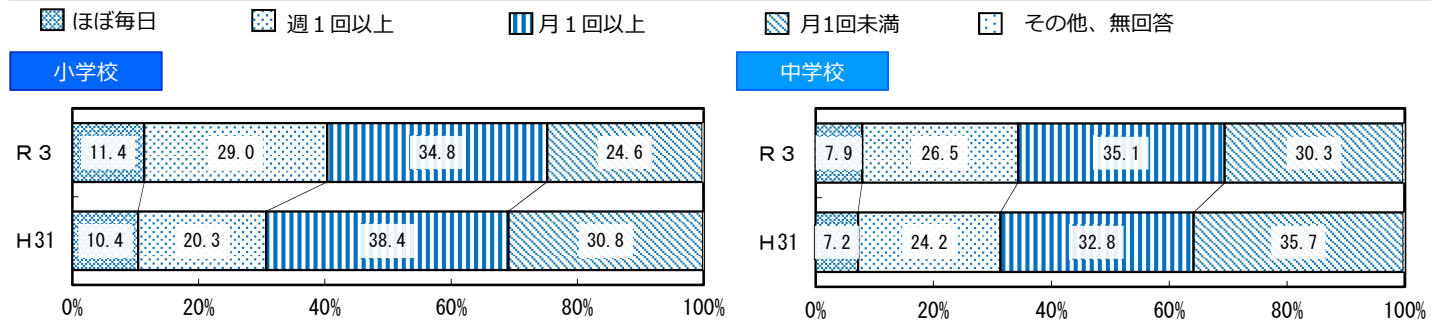
- ◆ICTを活用した授業の頻度は増加しており、「ほぼ毎日実施した」と回答した小中学校の割合は50%以上である。
- ◆児童生徒の授業でのコンピュータなどのICT機器の使用頻度は増加しており、特に小学校では「ほぼ毎日」「週1回以上」と回答した児童の割合が約10ポイント増加している。
- ◆「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達〔生徒〕と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」との質問について、「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合は約10%、「ほぼ毎日」と「週1回以上」をあわせると約40%である。
- ◆「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は90%を超えており、高い割合となっている。

※1人1台端末は、文部科学省調査「GIGAスクール構想の実現に向けたICT環境整備の進捗状況について（確定値）」（令和3年3月末時点）において、「全自治体のうち1,748自治体等（96.5%）が令和2年度内に端末の納品を完了する見込み」とであるとされている。

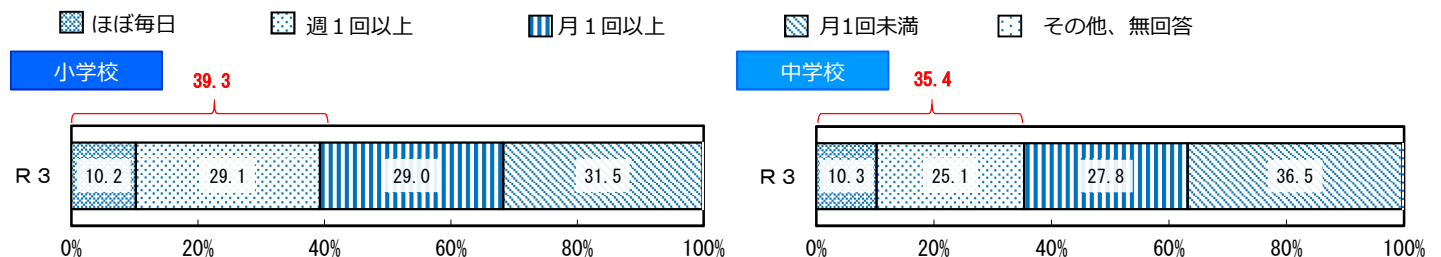
【学校質問紙】前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか。



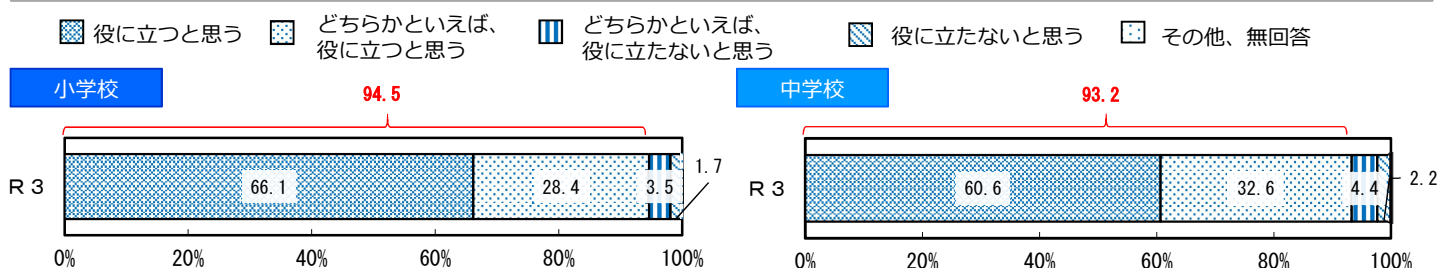
【児童生徒質問紙】前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。



【児童生徒質問紙】あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達〔生徒〕と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。（新規）



【児童生徒質問紙】学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。（新規）

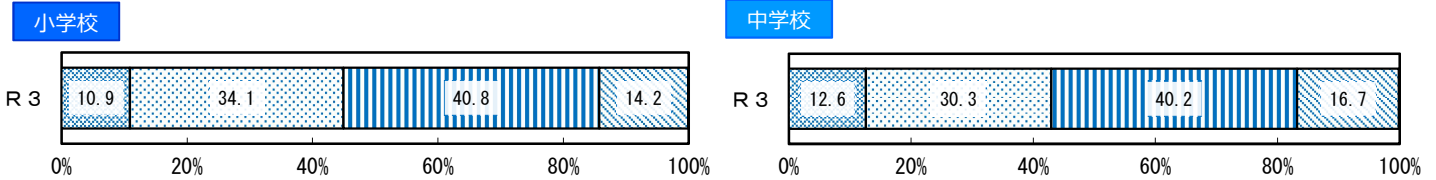


2(2). ICTを活用した学習状況 (ICTの活用頻度②)

- ◆小中学校におけるICT機器を活用した取組について、「教職員と児童・生徒がやり取りする場面」では約10%が「よく活用している」と回答している。
- ◆「あなたの学校では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」との質問について、「毎日持ち帰って、毎日利用させている」「毎日持ち帰って、時々利用させている」「時々持ち帰って、時々利用させている」と回答した小中学校の割合は約20%である。

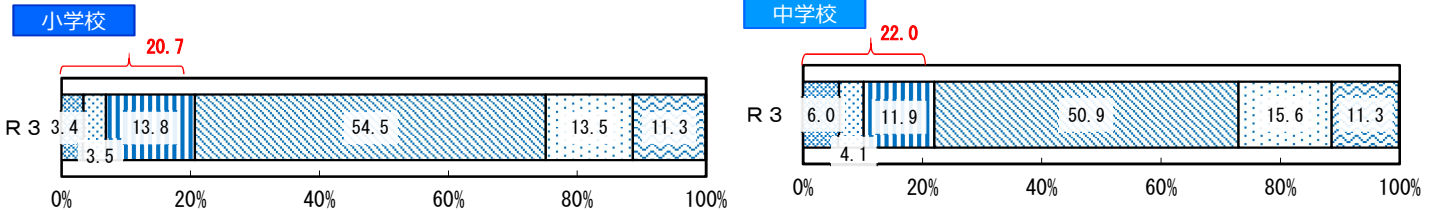
【学校質問紙】あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか。教職員と児童生徒がやりとりする場面（新規）

よく活用している どちらかといえば、活用している あまり活用していない 全く活用していない その他、無回答



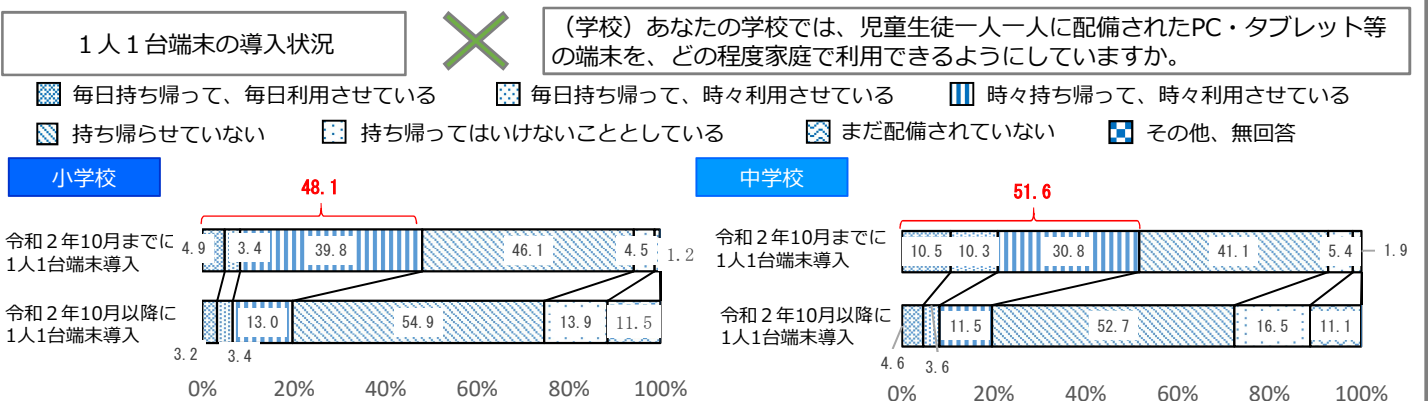
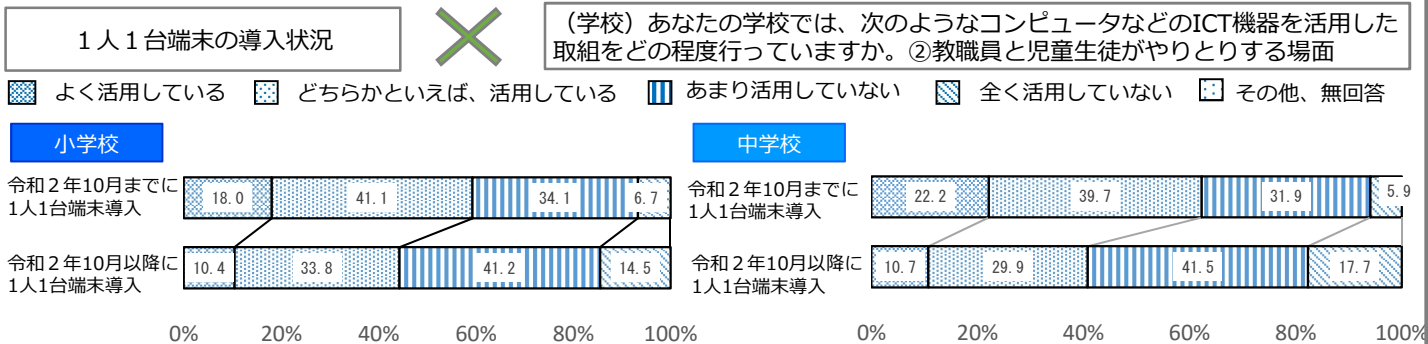
【学校質問紙】あなたの学校では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。（新規）

毎日持ち帰って、毎日利用させている 毎日持ち帰って、時々利用させている 時々持ち帰って、時々利用させている
 持ち帰らせていない 持ち帰ってはいけないこととしている まだ配備されていない その他、無回答



【1人1台端末の導入状況】と【ICTを活用した取組の頻度】/【ICT端末の家庭での利用状況】の関係

- ◆1人1台端末を令和2年10月までに導入した自治体とそれ以降に導入した自治体のICT機器を活用した取組の状況（教職員と児童生徒がやり取りする場面）を比較すると、**令和2年10月までに導入した自治体の方が、「よく活用している」「どちらかといえば活用している」と回答した学校の割合が高い。**
- ◆1人1台端末を令和2年10月までに導入した自治体とそれ以降に導入した自治体のICT端末の家庭での利用状況を比較すると、**令和2年10月までに導入した自治体の方が、「持ち帰って利用させている」と回答した学校の割合が高い。**

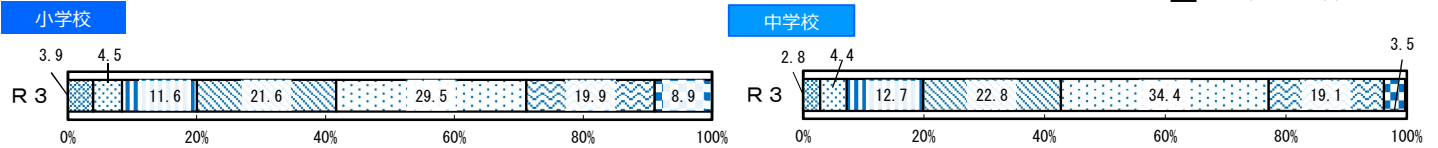
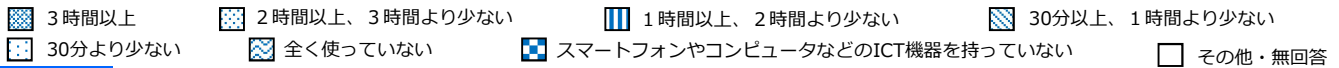


※データは公立のみ

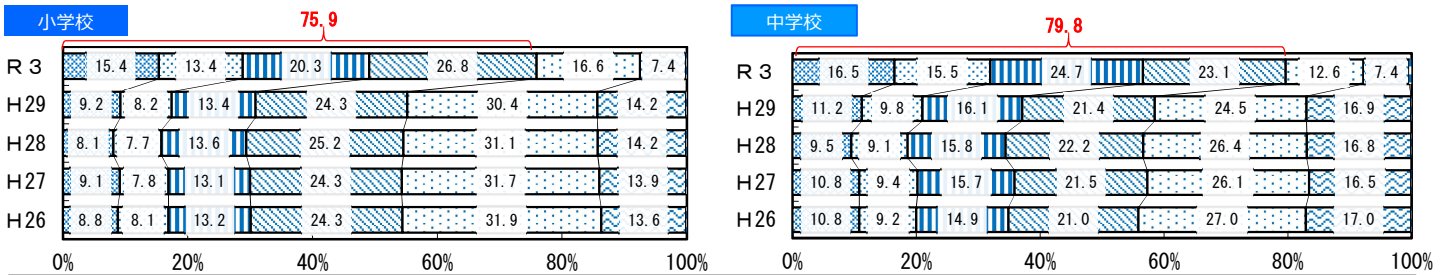
2(2). ICTを活用した学習状況 (ICTを用いた学習時間等)

- ◆「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」との質問について、児童生徒の回答で一番割合が高いのは「30分未満」（約30%）である。また全体の約20%については「全く使っていない」と回答している。
- ◆1日当たりのテレビゲームをしている時間は児童生徒ともに増加しており、「1日当たり1時間以上テレビゲームをしている」と回答した児童生徒の割合は75%以上となっている。
- ◆小中学校ともに1日当たりのテレビゲームの時間が増えるほど、各教科の平均正答率は低い傾向にある。
- ◆「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」との質問について、回答状況に大きな減少は見られない。

【児童生徒質問紙】 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。（新規）



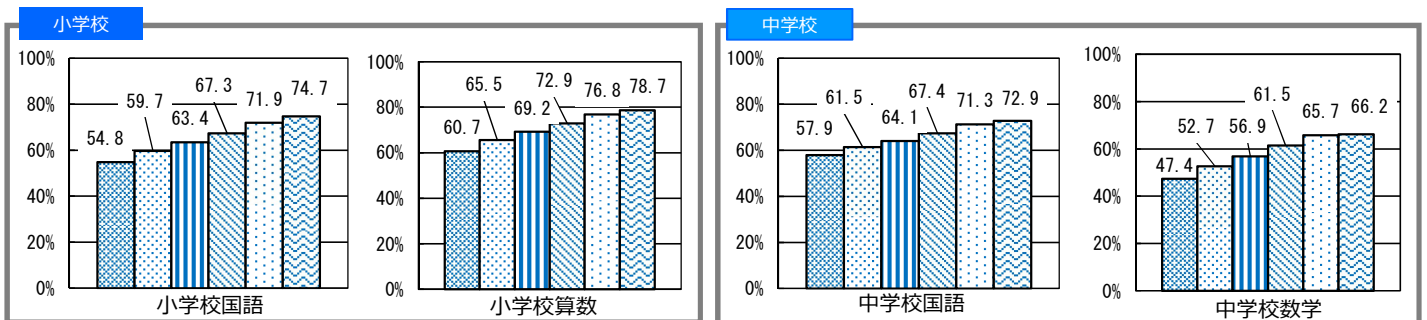
【児童生徒質問紙】 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。



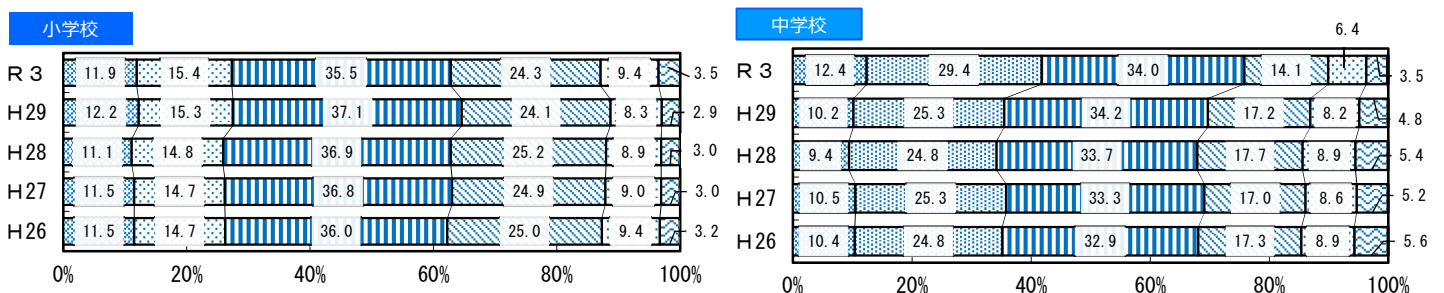
【ゲームの時間】と【平均正答率】との関係

（児・生） 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。

✗ 平均正答率



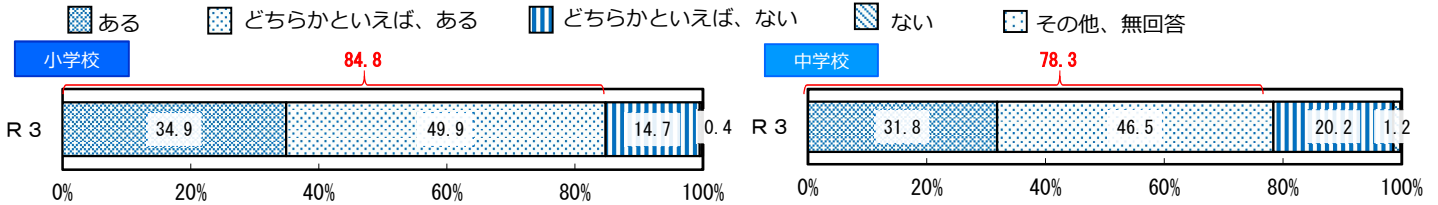
【児童生徒質問紙】 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。



2(2). ICTを活用した学習状況 (ICTの活用を推進するための有効な取組)

- ◆ 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会について、「ある」「どちらかといえば、ある」と回答した割合は約80%である。
- ◆ 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修が実施されているほど、ICTの活用頻度は高い傾向にある。
- ◆ コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制について、「ある」「どちらかといえば、ある」と答えた割合は約50%である。
- ◆ コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制が整備されているほど、ICTの活用頻度は高い傾向にある。

【学校質問紙】教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会（新規）



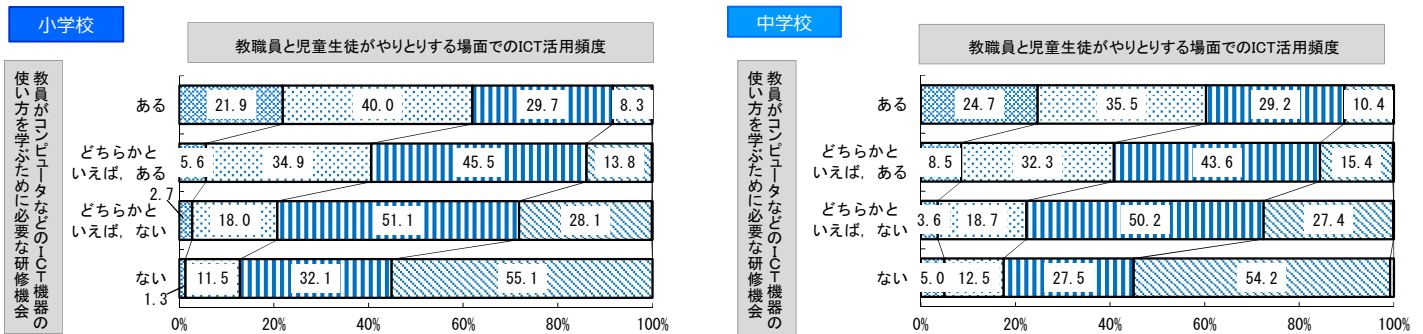
【教員がICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会】と【ICT機器を活用した取組の頻度】との関係

(学校) 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会

(学校) 教職員と児童生徒がやりとりする場面でのICT活用頻度

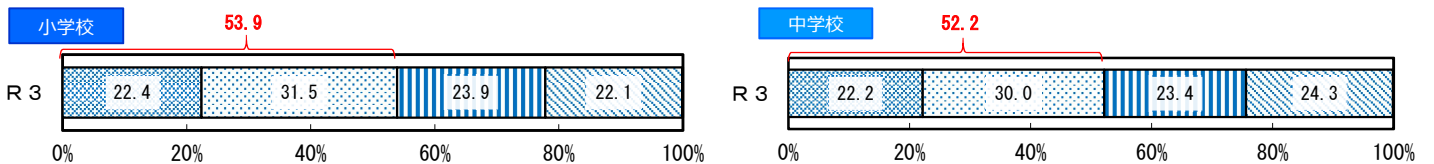


よく活用している どちらかといえば、活用している あまり活用していない 全く活用していない その他、無回答



【学校質問紙】コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制（新規）

ある どちらかといえば、ある どちらかといえば、ない ない その他、無回答



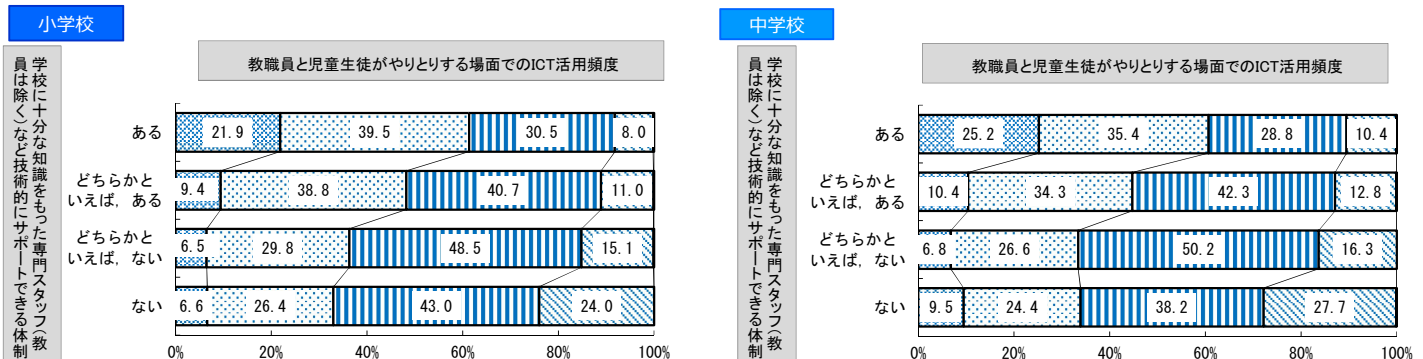
【ICT機器の活用に関する専門スタッフ】と【ICT機器を活用した取組の頻度】との関係

(学校) 学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制

(学校) 教職員と児童生徒がやりとりする場面でのICT活用頻度



よく活用している どちらかといえば、活用している あまり活用していない 全く活用していない その他、無回答

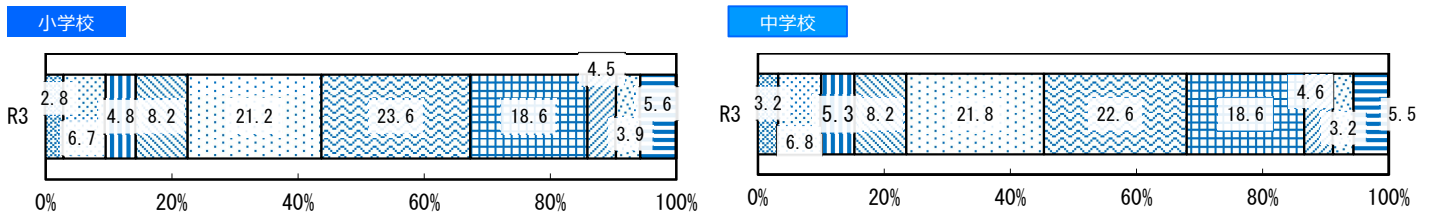


2(3).新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業と児童生徒の学習状況・学校の取組①

- ◆令和2年4月以降の新型コロナウイルス感染症の影響による地域一斉の学校の臨時休業期間は、**小中学校ともに「50日以上、60日未満」が最も多く**、次に「40日以上、50日未満」、「60日以上、70日未満」であった。
- ◆臨時休業期間中、家庭学習の内容として「**教科書に基づく学習内容の指示**」や「**学校作成のプリント等の配布**」を課したと回答した小中学校の割合は**約80%**、「**教育委員会作成の問題集等の教材を活用した学習**」は**約25%**、「**学校作成の学習動画等を活用した学習**」は**約15%**、「**同時双方向型オンライン指導を通じた学習**」は**約5%**であった。

(学校質問紙) 令和2年4月以降の新型コロナウイルス感染症の影響による地域一斉の学校の臨時休業等の期間 (※)

10日未満
 10日以上、20日未満
 20日以上、30日未満
 30日以上、40日未満
 40日以上、50日未満
 50日以上、60日未満
 60日以上、70日未満
 70日以上、80日未満
 80日以上、90日未満
 90日以上

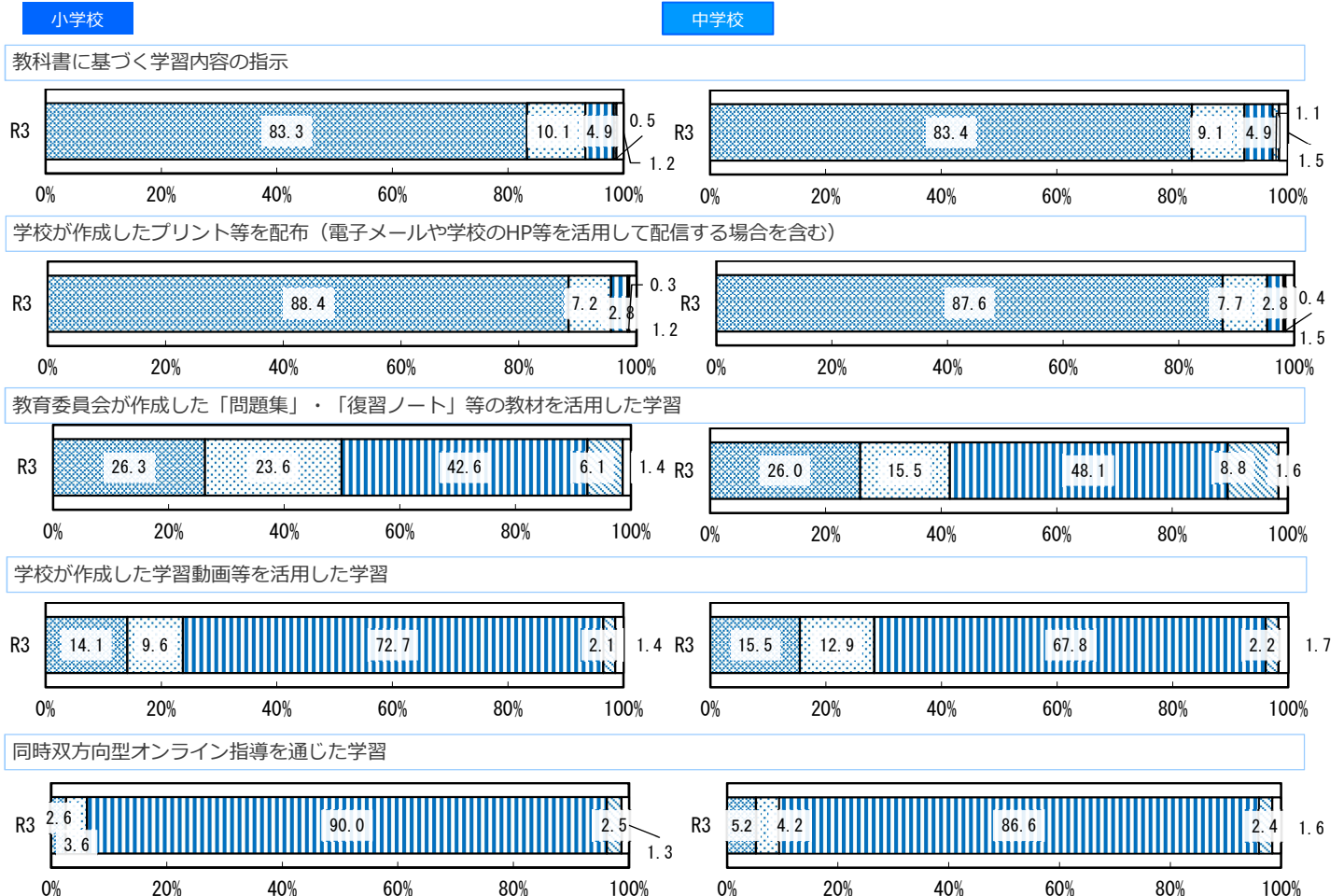


選択肢	10日未満	10日以上、20日未満	20日以上、30日未満	30日以上、40日未満	40日以上、50日未満	50日以上、60日未満	60日以上、70日未満	70日以上、80日未満	80日以上、90日未満	90日以上
小学校	2.8	6.7	4.8	8.2	21.2	23.6	18.6	4.5	3.9	5.6
中学校	3.2	6.8	5.3	8.2	21.8	22.6	18.6	4.6	3.2	5.5

※短縮授業・分散登校を含み、春季休業を含まない。また、学校全面再開後に感染者が発生したなどの理由により個別に行われていた臨時休業等は含まない。

(学校質問紙) 臨時休業期間中に家庭学習としてどのようなものを課していましたか。

基本的に全校で実施
 一部の学年・学級で実施
 実施していない
 学校として統一的に把握していない
 その他、無回答



2(3).新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業と児童生徒の学習状況・学校の取組 ②

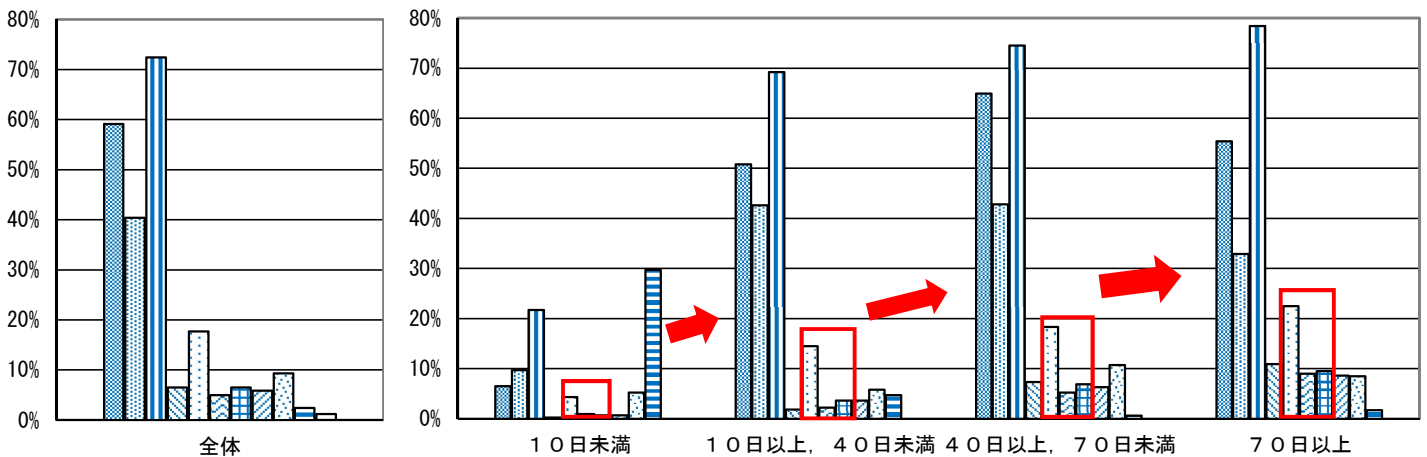
- ◆臨時休業期間中、児童生徒の学習状況や生活状況の把握手段について、「電話やFAXにより行った」(小中：約70%)、「登校日を設定して学校で直接行った」(小：約60%、中：約70%)、「家庭訪問により行った」(小中：約40%)が上位3位の回答であった。
- ◆臨時休業期間中の児童生徒の学習状況や生活状況の把握手段について、臨時休業期間が長くなるほど、「電子メールやSNSを使って行った」「オンライン学習支援プラットフォームや学習管理システム等を活用して行った」「同時双方向型オンラインシステムを活用して行った」と回答した小中学校の割合が高くなっている。
- ◆臨時休業期間終了以降に当該休業への対応として「児童生徒の心身の状況のチェック」、「児童生徒の学習状況及び成果の確認」を行ったと回答した小中学校の割合は約90%であった。また、「長期休業期間の短縮」や「学校行事の見直し」を行ったと回答した小中学校の割合は約90%であった。
- ◆臨時休業期間終了以降に当該休業への対応としては、臨時休業期間が長くなるほど、「学習内容の定着が不十分である児童生徒を対象とした補習の実施」「時間割編成の工夫」「土曜日の活用」「次年度以降を見越した教育課程編成」「授業における学習活動の重点化」を行ったと回答した小中学校の割合が高くなっている。

(学校質問紙)臨時休業期間中、調査対象児童生徒の学習状況や生活状況について、どのような手段で把握していましたか。(複数回答)

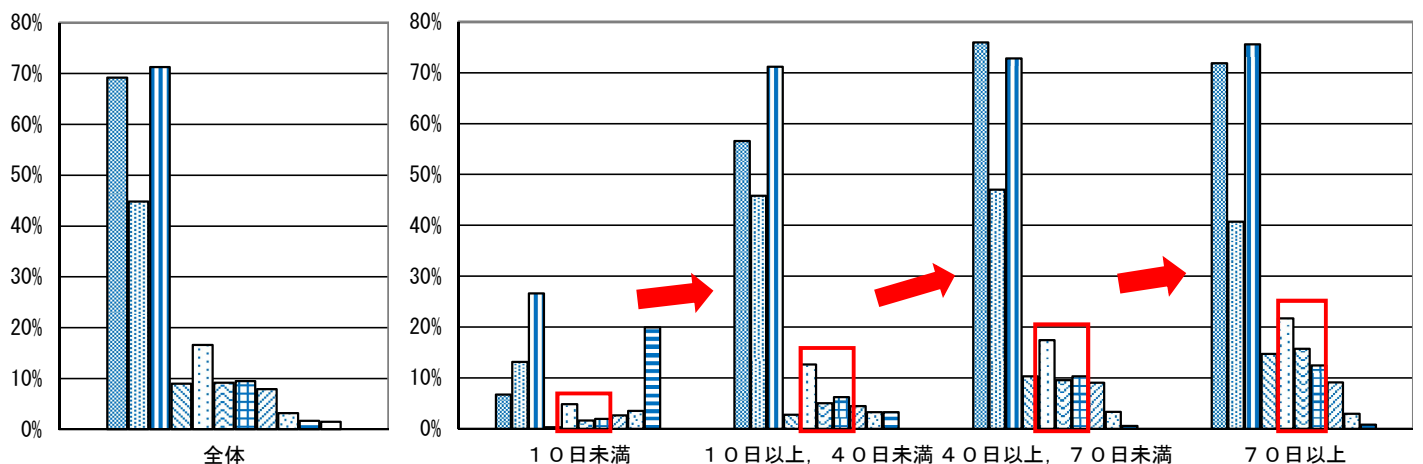
1. 登校日を設定して学校で直接行った
 2. 家庭訪問により行った
 3. 電話やFAXにより行った
 4. 郵便により行った
 5. 電子メールやSNSを使って行った
 6. オンライン学習支援プラットフォーム・学習管理システム等を活用して行った
 7. 同時双方向型オンラインシステムを活用して行った
 8. 児童生徒が利用可能な相談窓口を周知・設置して行った
 9. 1～8以外を行った
 10. 特に行わなかった

(全体)	1. 登校日を設定	2. 家庭訪問	3. 電話やFAX	4. 郵便	5. 電子メールやSNS	6. プラットフォーム・学習管理システム等	7. 同時双方向型オンラインシステム	8. 相談窓口の周知・設置	9. 1～8以外の手段	10. 特に行わなかった
小学校	59.1	40.4	72.4	6.5	17.7	5.0	6.5	5.9	9.3	2.4
中学校	69.2	44.8	71.3	9.0	16.6	9.2	9.5	7.9	3.2	1.7

小学校



中学校



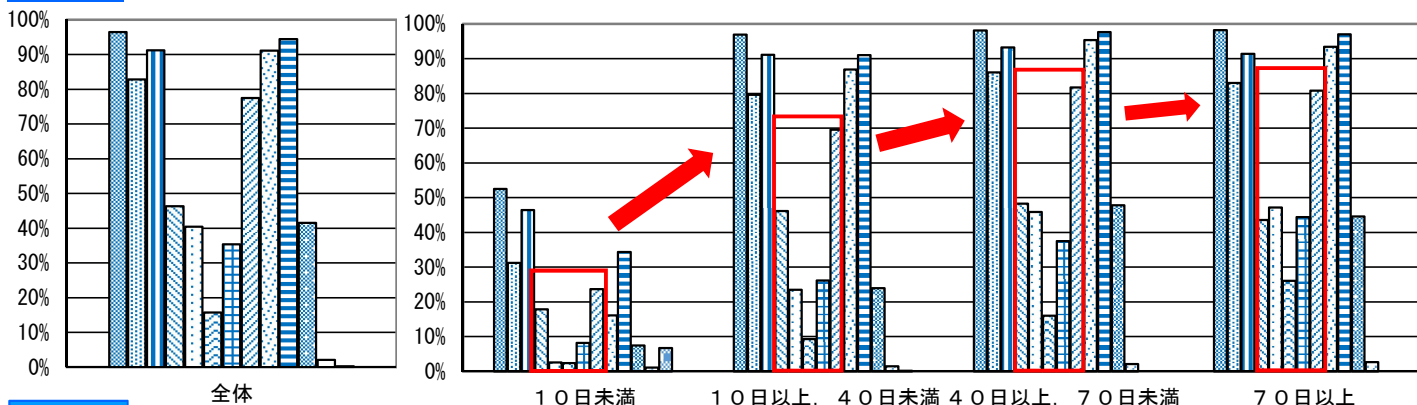
2(3).新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業と児童生徒の学習状況・学校の取組③

(学校質問紙) 臨時休業期間のうち学校の全部を休業していた期間が終了した以降に当該休業への対応として以下のことを行いましたか。(複数回答)

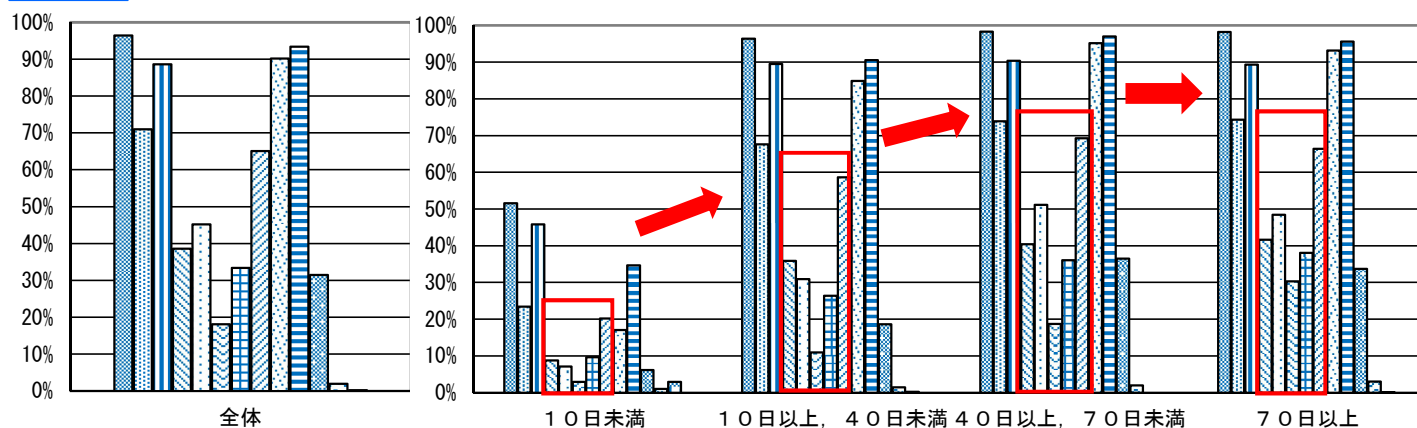
- 1. 児童生徒の心身の状況のチェック
- 2. 学習の定着が不十分である児童生徒の把握
- 3. 児童生徒の学習状況及び成果の確認
- 4. 学習内容の定着が不十分である児童生徒を対象とした補習の実施
- 5. 時間割編成の工夫
- 6. 土曜日の活用
- 7. 次年度以降を見越した教育課程編成
- 8. 授業における学習活動の重点化
- 9. 長期休業期間の短縮
- 10. 学校行事の見直し
- 11. 追加的な人材の配置
- 12. 1～11以外を行った
- 13. 特に行っていない

(全体)	1. 心身の状況のチェック	2. 学習内容の定着が不十分である児童生徒の把握	3. 学習状況及び成果の確認	4. 補習の実施	5. 時間割編成の工夫	6. 土曜日の活用	7. 次年度以降を見越した教育課程編成	8. 授業における学習活動の重点化	9. 長期休業期間の短縮	10. 学校行事の見直し	11. 追加的な人材の配置	12. 1～11以外の対応を行った	13. 特に行っていない
小学校	96.5	82.8	91.2	46.3	40.4	15.7	35.4	77.5	91.1	94.4	41.5	2.1	0.3
中学校	96.4	71.0	88.6	38.6	45.2	18.1	33.4	65.1	90.2	93.4	31.5	1.9	0.2

小学校



中学校

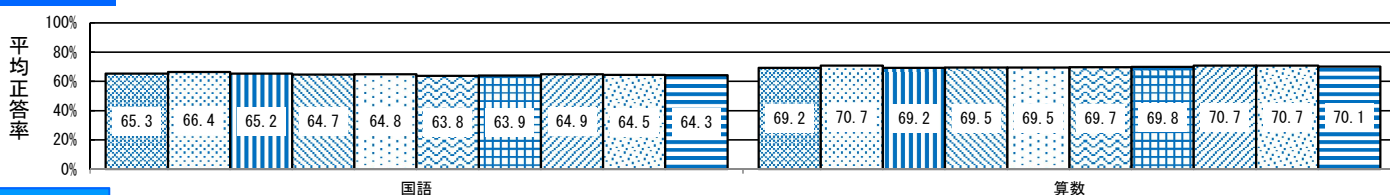


(学校質問紙) 臨時休業等の期間×各教科の平均正答率

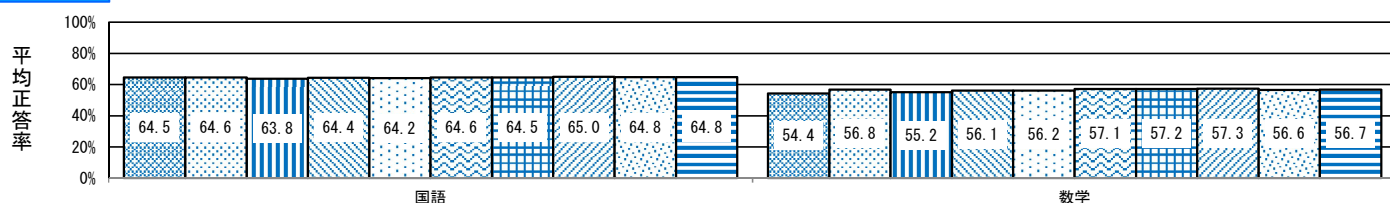
◆臨時休業期間の長さとは各教科の平均正答率との間には、全体で見ると相関は見られなかったが、経年変化分析調査及び保護者に対する調査等を活用して更に詳細な分析を行うことが必要（例えば、児童生徒の家庭状況による影響等）。

- 10日未満
- 10日以上、20日未満
- 20日以上、30日未満
- 30日以上、40日未満
- 40日以上、50日未満
- 50日以上、60日未満
- 60日以上、70日未満
- 70日以上、80日未満
- 80日以上、90日未満
- 90日以上

小学校



中学校

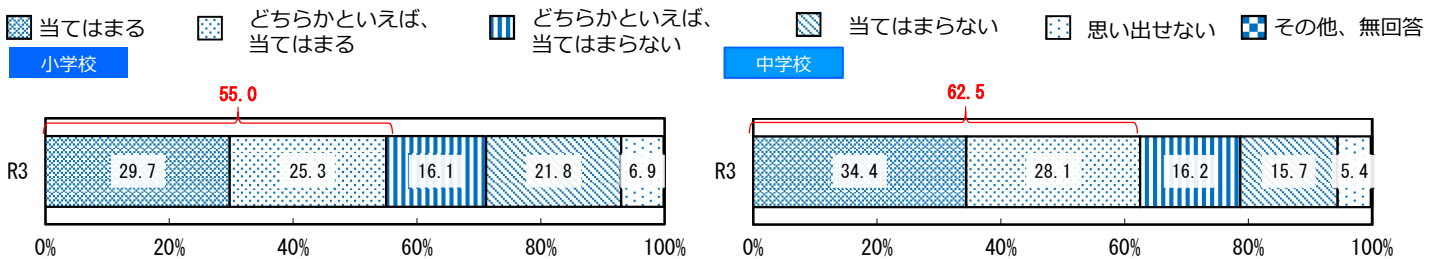


2(3).新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業と児童生徒の学習状況・学校の取組④

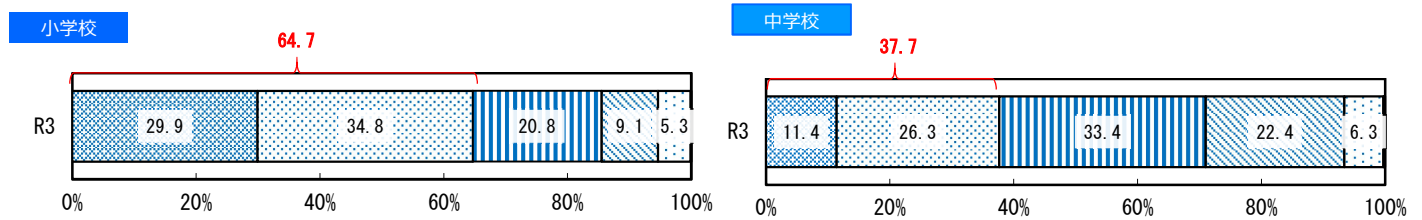
- ◆臨時休業期間中、「勉強について不安を感じたか」との質問について「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、**児童で55%、生徒で約60%**であった。
- ◆臨時休業期間中、「**計画的に学習を続ける**ことができたか」との質問について**肯定的に回答した割合は、児童で約65%、生徒で約40%**となっており、**児童生徒の間で回答に差**が見られた。
- ◆臨時休業期間中、「**規則正しい生活を送っていたか**」との質問について**肯定的に回答した割合は、児童で約65%、生徒で約50%**となっている。
- ◆臨時休業期間中、「**課題で分からないことがあったとき、どのようにしていたか**」との質問について、**児童は「家族に聞いた」との回答が最も多く(約80%)、生徒は「自分で調べた」との回答が最も多かった(約60%)**。

児童生徒の学習状況

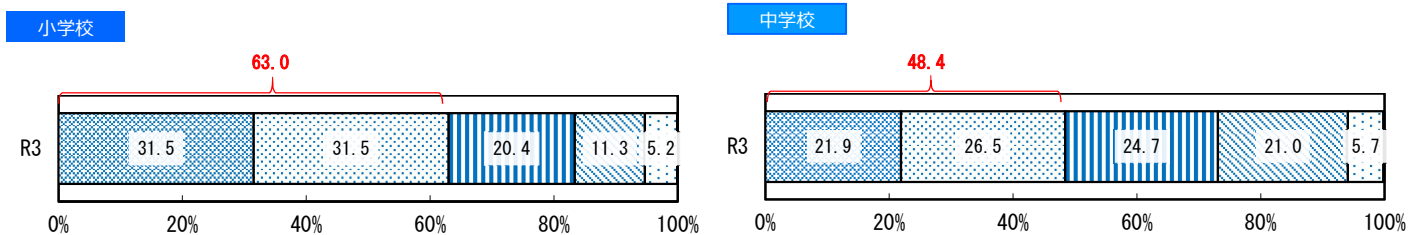
(児童生徒質問紙) 勉強について不安を感じた。



(児童生徒質問紙) 計画的に学習を続けることができた。

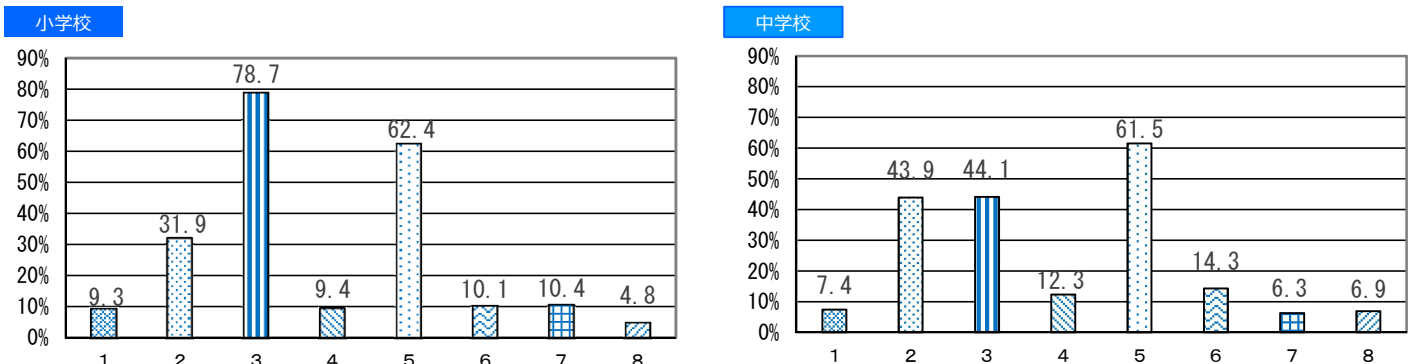


(児童生徒質問紙) 規則正しい生活を送っていた。



(児童生徒質問紙) 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか。(複数回答)

- 1.先生に聞いた 2.友達に聞いた 3.家族に聞いた 4.①②③以外の人に聞いた 5.自分で調べた
6.分からないことをそのままにした 7.分からないことがなかった 8.思い出せない



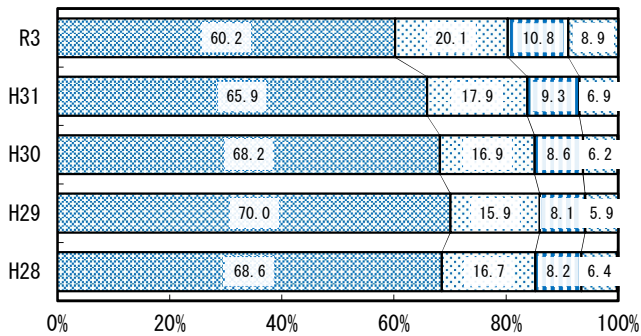
2(4). 質問紙調査項目の経年変化①

- ◆ 「将来の夢や目標を持っているか」との質問に「当てはまる」と回答した割合は、特に児童で減少している。
- ◆ 「人が困っているときは、進んで助けているか」との質問に「当てはまる」と回答した割合は、特に生徒で増加している。
- ◆ 「学校に行くのは楽しいと思うか」との質問に「当てはまる」と回答した割合は、特に児童で減少している。

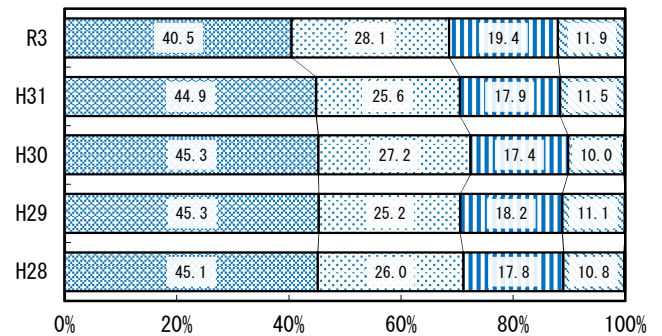
(児童生徒質問紙) 将来の夢や目標を持っている。

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない
 その他、無回答

小学校



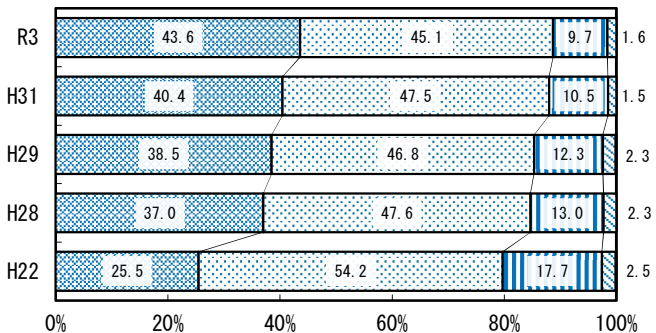
中学校



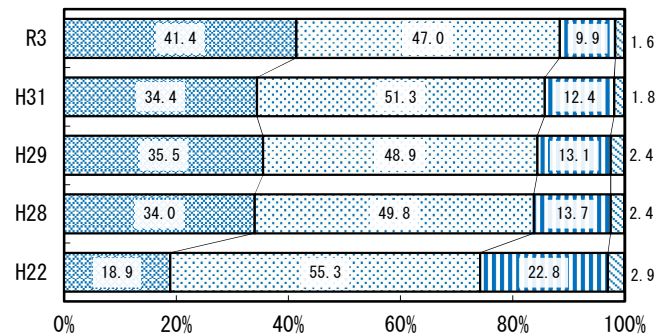
(児童生徒質問紙) 人が困っているときは、進んで助けている。

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない
 その他、無回答

小学校



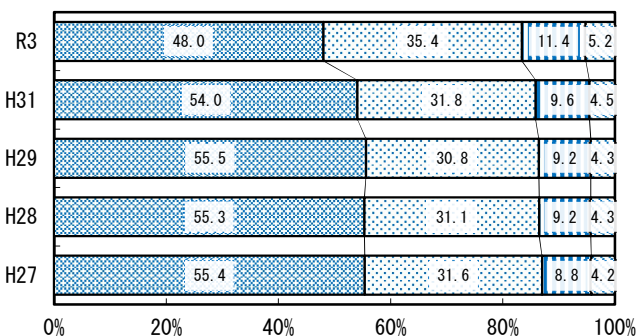
中学校



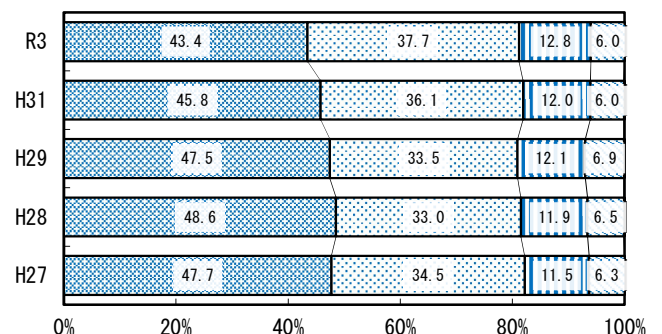
(児童生徒質問紙) 学校に行くのは楽しいと思う。

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない
 その他、無回答

小学校



中学校



2(4).質問紙調査項目の経年変化②

◆地域とのかかわりに関し、「**今住んでいる地域の行事に参加しているか**」との質問に対し「**当てはまる**」「**どちらかといえば、当てはまる**」と回答した児童生徒は減少している。

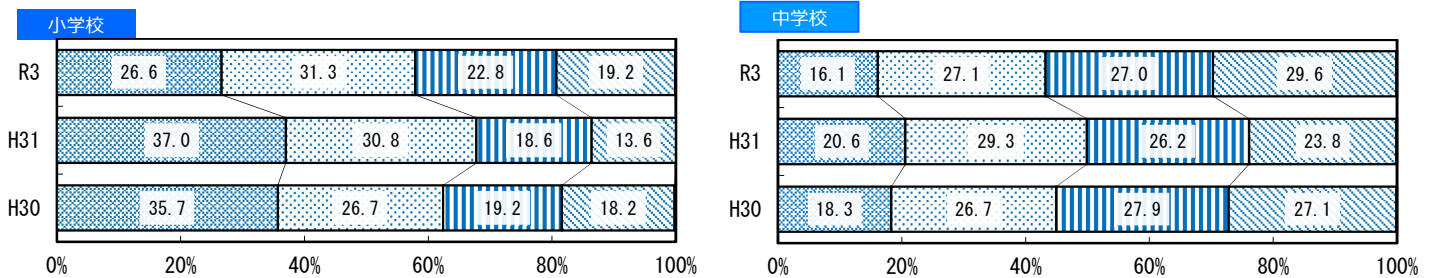
◆「**地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行ったか**」との質問に対し「**よく行った**」と回答した小中学校は減少している。

◆キャリア教育の取組に関し、「**職場見学や職場体験活動を行っている**」と回答した小中学校は減少している。

◆教員の研究会等の機会に関し、「**校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している**」との質問に対し「**よくしている**」と回答した小中学校は減少している。

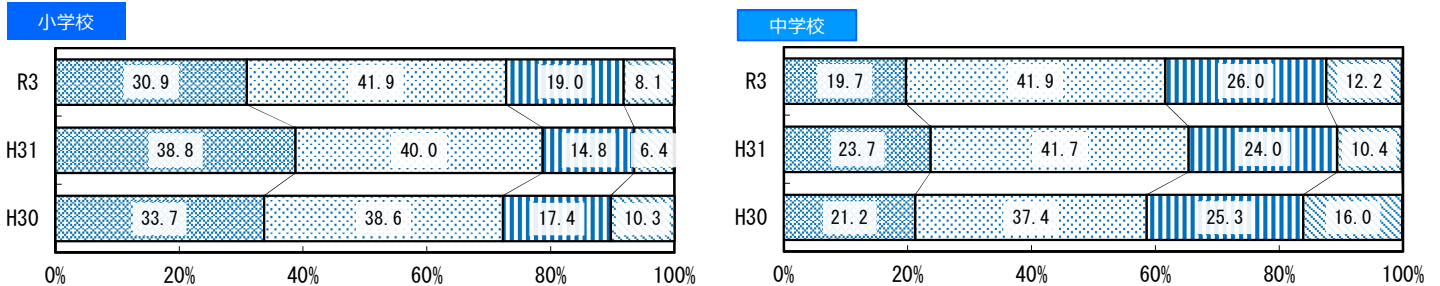
(児童生徒質問紙) 今住んでいる地域の行事に参加している。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない ■ その他、無回答



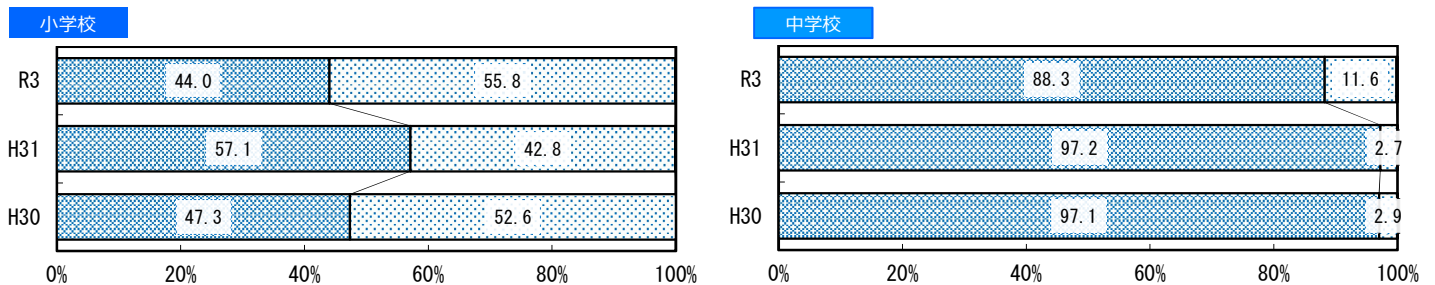
(学校質問紙) 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか。

■ よく行った ■ どちらかといえば、行った ■ あまり行かなかった ■ 全く行かなかった ■ その他、無回答



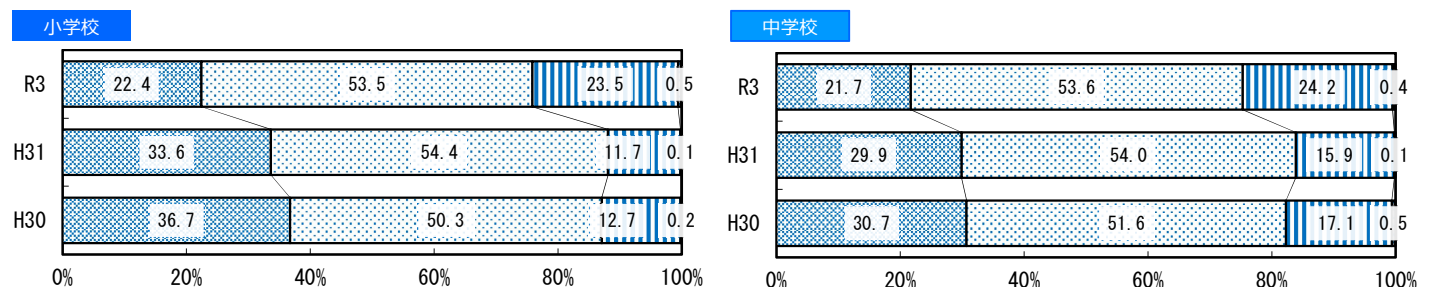
(学校質問紙) 職場見学や職場体験活動を行っていますか。

■ 行っている ■ 行っていない ■ その他、無回答



(学校質問紙) (個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、) 校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している。

■ よくしている ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない ■ その他、無回答



文部科学省の主な取組一覧

1. 学習指導要領の着実な実施

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

- ・新学習指導要領の趣旨・内容の周知・徹底。
 - －各都道府県等の指導主事を対象とした協議会の開催。
 - －各都道府県等による研修に文部科学省職員を講師として派遣。
- ・学力向上やカリキュラム・マネジメントに関する調査研究の実施。

○指導改善に資する情報提供等（国立教育政策研究所）

- ・報告書や授業アイデア例を全国に配布（教育委員会や学校等で学習指導の改善・充実を図る際に活用）。
- ・全国説明会（各教育委員会、教員養成大学等対象）を開催し、学習指導の改善・充実のポイントを解説（10月1日（金）オンライン開催）。
- ・オンラインなども活用しながら、学力調査官等による教育委員会や学校への指導・助言を実施。

○教職員研修の充実

- ・教科指導やカリキュラム・マネジメント等について、オンラインも活用した教員研修の充実を図るよう、研修実施主体である教育委員会に対し周知。

2. GIGAスクール構想の実現のためのハード・ソフト・人材一体となった学びの環境整備

○1人1台端末の円滑な利活用の促進

- ・インターネットの利用に関する家庭のルールづくりなどの保護者等への啓発。

○GIGA StuDX推進チームによる情報発信・共有

- ・「すぐにでも」「どの教科でも」「誰でも」活かせる1人1台端末の活用方法に関する優良事例や各教科等での活用事例、本格始動に向けた対応事例等を特設ウェブサイト「StuDX Style」やメールマガジンで情報発信・共有するとともに、担当者会議・オンライン相談会等による教育委員会等への支援を実施。

○ICT環境の整備・活用に関する外部人材の活用等による支援

- ・「ICT活用教育アドバイザー」による、ICT環境の整備・活用に関する専門的な助言や研修支援、「GIGAスクールサポーター」による1人1台端末環境における初期対応等の支援、「ICT支援員」による教師の日常的なICT活用の支援等を実施。

○ICT活用に関する教員養成・研修の充実

- ・養成段階において、ICTに特化した科目を新設し、ICT機器を活用する授業の設計や授業の方法等について総論を1単位以上学ぶことを義務化（教科の特性に応じた指導法等についても別途修得）。
- ・独立行政法人教職員支援機構と連携した、各地域でのICT活用に関する指導者の養成研修の充実。

3. 児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組の推進

○児童生徒の心のケア

- ・悩みを抱える児童生徒の早期発見・早期対応に向け、児童生徒の心身の状況の把握や心のケア等について、教職員に加え、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーによる支援の促進。

○キャリア教育の推進

- ・学校と地域・社会や産業界等が連携・協働し、職場見学、職場体験活動及び就業体験活動（インターンシップ）を促進するとともに、児童生徒が主体的に進路を選択することができるよう、「キャリア・パスポート」等の教材を活用するなど、体系的・系統的なキャリア教育を推進。

○地域社会との連携

- ・地域と学校の連携・協働により地域全体で子供たちの成長を支えるため、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と地域学校協働活動を一体的に推進し、オンラインなども活用しながら各地域における子供たちの多様な体験・交流活動の充実を図る。

4. 新しい時代の学びに向けた教師等の指導体制の環境整備

○小学校の教科担任制の推進と小学校の35人学級の計画的な整備

- ・新しい時代にふさわしい質の高い教育を実現するため、小学校高学年における教科担任制を推進するとともに、小学校における35人学級を計画的に整備。

○働き方改革の推進

- ・教師の負担軽減のための教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）や学習指導員、部活動指導員等の支援スタッフの充実等により働き方改革を推進。

5. 調査結果を活用した追加分析等

○経年変化分析調査及び保護者に対する調査の結果データを活用した追加分析

○個票データ等の貸与

- ・大学等の研究者による多様な学術研究の分析や、公的機関の職員等による教育施策の改善・充実を促進するため、平成30年度より、個票データ等の貸与を実施。